

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第27回会合 発言録

2022年11月14日

【加藤】 すみません、山崎さん、今日は、総務省の方とか河内さんとかは、参加とか何か連絡はありましたか。

【山崎】 特に連絡はいただいていません。

【加藤】 ないですね。

【山崎】 飯田さんが先ほど入られたようです。

【加藤】 そうですか。

【山崎】 飯田さんか（総務省）加藤さんか分からないですけども。

【加藤】 そうですね。飯田さんが。

【山崎】 国際戦略局の方は少なくともどなたかお入りになられています。

【加藤】 ありがとうございます。それじゃあ、今、追加で何人か入られたので、そろそろ活発化チームの会議を行いたいと思います。

最初に、先日の日本での秋イベント、皆様、大変お疲れさまでした。後でプログラム委員会のほうから詳しく報告いただくとおもいますが、我々の今までの経験を踏まえて、大変成果が出たんじゃないかと思えます。今日は、そのことを踏まえて、今後どうなるかという第1回目の会議ということになると思いますが、今までの議事、アジェンダに沿って、順に進めさせていただきたいと思えます。

山崎さん、画面を動かしていただけますか。アジェンダの最初、宿題の進捗確認ということですけども、一応まだ秋イベントの前にあったことということで、山崎さん、何か残っていることとかあるんでしょうかね。山崎さんが議事録を作っていただくところはこの辺ですね。

【山崎】 はい。1つ、重要なんですができてないのが、チェアに加藤さんに就任いただくという改定をしているんですが、それを盛り込んだチャーターがまだウェブに載せられていない。これは急ぎやりたいと思えます。

それと、先月末に開催しました日本インターネットガバナンスフォーラム2022の資料を掲載することが一番最優先と私は認識しています。

【加藤】 ありがとうございます。プログラム委員会でその話は出ると思いますが、サマリーのアップデートができてない部分があったりするので、フォローを後で確認することになると思えます。ありがとうございます。

Todoということでは、前回の議事の中で出てきたTodoに関しては、今日も同じような項目をカバーするので、そちらのほうでフォローしていただきたいと思えます。

ということでよろしいでしょうか。既に飯田様のお名前を拝見したので、飯田様か総務省の方で、現在のIGFの2023年に向けての状況報告をお願いできますでしょうか。

【総務省加藤】 総務省の加藤です。少ししたら飯田が来るので、そのときでお願いしてよろしいですか。

【加藤】 分かりました。

【総務省加藤】 すみません。

【加藤】 まずは、何かこれだけはというのはないですね。

【総務省加藤】 そうですね。飯田の口から言ったほうがいいかなと思います。すみません。

【加藤】 じゃあ、何かニュースがあるということで、それは後で伺うということで、次に進めたいと思います。

それから、MAGの報告なんですけれども、河内さんはいらっしゃいますでしょうか。お名前がまだ拝見できてない。

【山崎】 まだお入りになられてないようですね。

【加藤】 ないですね。じゃあ、もう少しお待ちするということで、多分今日の本題の一つであります秋イベントの報告については、上村さんがいらしたんですが、プログラム委員会の報告という形で秋イベントについて報告いただけますでしょうか。

【上村】 こんにちは。上村です。この話を振られるのはもっと先かと思っていたので、ちょっと内職していました。すみません。

【加藤】 ごめんなさい、大丈夫ですか。

【上村】 1つ、皆さんに今さらなんですけどお願いというか検討いただきたいのが、秋イベントという名称は、今回の会合の正式名称が決まらない間のニックネーム、コードネームだったので、日本IGF2022とか、JIGF2022とか、あるいは2022フォーラムとか、何かそういう名称で呼んでいたほうがよかったのではないかなと個人的には準備をしながら思いました。すみません。今後はよろしく検討くださいませ。

【加藤】 上村さん、これは、報告書なんかの中でもきちんとかういうふうに入れるということでよろしいんでしょうかね。インターネットガバナンスフォーラム2022とか。

【上村】 2022フォーラムぐらいがよろしいんじゃないかと思いますが、私はそういうふうにしたという次第ですが、そういう細かいことはさておくと、まず外形的なところからですね。参加者数については、先日、プログラム委員会で報告がありましたが、山崎さん、ありがとうございます。トータルで、重複を除いて252名の方が参加をされたということです。Day1の前に開催したイベントは72名の参加がありました。

それから、初日、Day1は157名でした。Day0は遠隔だけでしたけれども、初日、Day1は現地に23名の方がいらっしゃいました。これ、登壇者は含むんだけど、たしか我々は入らなかつたんでしたよね。なので、実際に会場にいた人数はもう少し多かったということだったと思います。

それから、2日目、3日目というか、Day2はトータル142名、現地参加16名、遠隔126名ということでした。割と遠隔で参加になった方が多かったという印象をプログラム委員の皆さんもお持ちになっていたのではなかったかと思います。そういう意味では、特にDay0のこともあり、今までリーチできな

かった、参加いただかなかった方々にも参加いただくことになったのではないかと評価しております。

参加者数と申込み数の比については、81%だったそうで、割と高い数字だろうと思う次第です。

これが参加状況で、プログラムについては、基本的には、直前の活発化チーム会合まで確定しないところもありましたが、枠的にはいずれも予定したとおりに実施されたと言えるかと思います。初日にオープニングセッションとテーマセッション2つ、2日目にテーマセッション2件と特別セッション1件を実施しました。冒頭は、国連のチャングタイ氏のビデオメッセージをいただいた上で、国際戦略局次長の小野寺さんに挨拶をいただきつつ、また、慶應大学の村井先生にも挨拶いただくという、挨拶だけではなくて、オープニングセッションにも実は参加いただいたわけですがけれども、そういう形で、何となく位置づけ的にもすっきり、はっきりしたのではないかと思います。すみません、プログラムを映してくださっています。

サマリーを一応作りまして、今、取りまとめをしているところですか、山崎さん、すみません、サマリーを見せていただけるでしょうか。当日配付した資料や、主催者側で作成したサマリー、300字程度の短いものですがけれども、そういうものを作りまして、いずれもイベントページにリンクを追加して、どんな雰囲気議論であったのかが分かるようにしようという話になっています。

それとは別に……。

【加藤】 これは少しひどい地震ですね。そうでもないかな。

【上村】 ちょっと揺れていますね。

【山崎】 揺れていますね。

【加藤】 それほどでもなかったですかね。特に聞いていらっしゃる方で、ひどく感じた方がいらっしゃればあれですがけれども、大丈夫ですよ。もう収まってきたみたいですし。

【山崎】 まだ揺れていますね。

【加藤】 まだ少し揺れていますけれども、会議を止めなきゃいけない感じの地震ではないですよ。何かあれば。

【上村】 よろしいですかね。

【加藤】 はい。すみません、話を遮ってしまいました。

【上村】 多分気づいたタイミングからすると、加藤さんが今いらっしゃるところと私がいる練馬とで相当の時差があったような気がするので、地震というのは地面を伝わるものだなというのを一瞬感じました。

セッションサマリーですね。まだ1件埋まっていないものがあつたと思いますけれども、こういう形でまとめましたので、一々ビデオの録画を見るのはしんどいという方とか、プレゼンテーションを一々聞くのは大変という場合には、こちらを見ることで当日の雰囲気が分かるようにはしようと思っていますということです。

【加藤】 ごめんなさい、今の「スプリンターネット？」とスペシフィックに言って申し訳ないんですが、これがまだ来てないのは、私、コーディネーターで大変申し訳ありませんが。

【前村】 当事者として申し訳ありません。水越さんに言って、もう一度リマインドしてみます。

【加藤】 そうですね。この程度、簡単なことで結構ですので、申し訳ありません。これで全部もう完成なので、できればそろそろアップしていただくということで、申し訳ありません、よろしくお願いします。

【上村】 あと、これとは別に、スタンドアロンで配布できるようなものを作ったらどうかという話もありましたので、もしかするとそういうものも別途アーカイブとか記録用に作成することになるかもしれません。

それで、アンケートはどうしたらいいんでしたっけ、アンケートを直接御覧いただく形になりますけど、まず、アンケートに答えた方のセクターですね。民間企業は何%、ちょっと色がよく分からないんですけども、今回……。

【山崎】 41%で、緑の濃いのは学生さんですね。学生が20.5%。薄い緑は報道機関ですね。だから、数%ですね。市民社会と技術コミュニティーがそれぞれ10.3%。そんな感じかと思います。弁護士という方は、どのカテゴリーも当てはまらないと判断されて、その他のところに書いていただいたんだと思いますけど、今後、どのステークホルダーに当てはめるのか、我々で考えないといけないという気がしました。

【上村】 我々というか、私もどこかのセッションで言いましたけど、自分がどこに帰ってフィードバックするつもりかで決まるんじゃないかと思うので、多分本人に申告させるしかないような気がします。

今回、弁護士はお二人いらっしやった。お二人はいないか。内輪ではないということかもしれない。内輪では結構知り合っている。

【山崎】 登壇者で少なくとも2人いらっしやったので、それプラス参加者でいらっしやればという感じ。

【上村】 ごめんなさい、山崎さん、これ、申込みした人がどういうステークホルダーのバランスだったかというのは分かるんでしたっけ。それは分からないんでしたっけ。

【山崎】 ローデータならあります。すみません、グラフにするところまではできてないです。

【上村】 分かりました。じゃあ、それはおいおいしたほうが良いような気がしますけれども、アンケートから見る内訳はこういう感じだったということですね。

それで、アンケートで、本イベントを知ったきっかけとか、人づてに聞いてというのが意外に多いですけども、あとは、次が何でしたっけ。こういうのは初めてだったかどうかですね。初めてだった人が多かったということですね。学生が若干多かったということも影響しているかもしれません。

それから、理由については、インターネットガバナンスに関心があった、話し手に興味があった、プログラムに興味があったというのが多くあったということですね。参加日程については、おおむね参加者の実数に対応しているような感じがしますけれども、御覧のとおりです。あとは、これは解釈しにくいので置いておきまして、全体的な印象は、役に立った、満足したと普通という回答に分かれています。

開催形態は、今後、次回以降どういう形で会合をするのか分かりませんが、それに役立てられればと思いますけど、これ、今気づきましたが、よい、普通、悪いにしまうと、悪いと言われたとき

に、長くすればいいのか短くすればいいのか分からないので、その点についてはアンケートの聞き方も今後検討が必要かもしれません。

自由意見ですが、情報提供も重要だけれども、質疑応答もあったほうがよいので、セッションを長くしろという話があったとか、メタバースを取り上げたのはよかったとか、それから、まとまった時間が取れない場合があるのでアーカイブや資料を公開していただきたいとか、セッションの時間を延長するのはよくなかったとか、最後のセッションの意図が分からなかったということもあったようですが、そういう感想があったということですね。

あとは、事務的ですかね。これは学生だと思いますけれども、学校の時間とかぶって参加できなかったのが多かったという意見がありました。今回、プログラム委員会の中で、開催を終日で平日にするのか、週末にするか、あるいは週末、平日またがるのかということを検討した際に、平日参加に不具合がある人はきっと来ないだろうというような議論がありまして、それで、木、金の2日間ということにしたわけですが、こちらについては、もしかすると、今後こういう人たち、こういう人たちというのは学生とか、昼間の仕事とは関係ないけど興味があるという方に参加いただくようにするには、開催日や時間をもう少し真剣に考える必要があるのではないかと思います。

IGFとは何かなど基本的な説明があればよかったという意見もあったようです。

ということで、自由意見は以上のような感じでしょうか。

それで、プログラム委員会の中で振り返りをしまして、フォーラムレビューということで、グーグルのジャムボードを使って感想とかをまとめたんですけど、大胆にまとめると、まず、総評で言うと、ホップ、ステップ、ジャンプというの分かりませんが、前回、昨年開催した会議を受けて、今回は次につながる会議になってよかったのではないとか、前回と比較して学習効果があったのではという意見もありました。ただ、フォーラム、セッションの中身ですね、議論重視とかガバナンスを扱うと言ったものの、なかなか議論重視にならなかったり、ガバナンスに関わる素材ではあったんだけど、議論そのもの、あるいはセッションがガバナンスを扱ったものに十分ならなかったようなところもあるので、それをどうしたらいいかということについて意見がありました。

あとは、もう一つ大きなこととしては、IGFに参加したことの無い人に対して、IGFというのこういう場なので、こういう参加をしてくださいという主催者側のメッセージを伝える必要もあるだろうということがありました。それは、幾つかポイントがあるんですが、1つは、セッションは発表会じゃないので、もうちょっと議論を重視してほしいということと、発表会ではないので、自分の出番が来るまで会場におらず、自分の出番が終わったら会場から去ってしまうということにはしてほしくないというような期待があるわけです。そういう期待をどうやって伝えればよいかというのが、今後検討すべきことになるだろうという話が出た次第です。

あとは、細かいことと、毎度こういうことの反省会をするとよく出てくる話題なのではないかと思いますが、あと、今後のアクションとしては、私、さっきメモをすっかり自分で消してしまったので、記憶で補っているんですけど、秋だけではなくて春にも何かイベント、会合を開催して、IGF2023につながるような議論を喚起したいというような話も反省会の場では出ました。

一つ一つ拾っていくと時間、切りがないので、ざっくりまとめるとそんな感じだったと思いますが、個人的には、当初は支援組織をつくって、その組織がお披露目イベント的に今回のフォーラムを実施しようという話であったわけで、若干それに合わせて大がかりというか、全体セッションを決めて、

テーマセッションを募集してという形にしたわけですがけれども、その前提が崩れてしまって、フォーラムだけが取り残された感じになったので、ボランティアというか有志が集まって開く会合としては若干重かったなという印象です。ただ、いやいや、そんなことはないという意見がプログラム委員会の反省会の中では多かったので、多分私がそういうふうを感じただけということなのかもしれません。

ざっと分かりやすい資料もないまま報告してしまいましたけれども、皆様の協力と声援を受けまして、10月26、27、28日で日本インターネットガバナンスフォーラム2022が無事に開催できました。この場を借りて改めて御礼を申し上げます。

それから、もう一点よろしいですか。プログラム委員会の名簿を会議当日付で確定させたいと思っております。山崎さん、画面をもらいます。こういう形で一応記録に残しておいて、誰が企画したのというのが後から分かるようにしておきたいと思っております。私の記憶の限りで名前のアップデートをしておりますけれども、もし入るべき人が入っていないとか、もう抜けているはずの人が入っているとかということがありましたら教えてください。あと、JAIPAの平さんの下の名前が漢字、日本語で分からなかったもので、後でどなたか教えてください。

以上です。

【加藤】 上村さん、どうもありがとうございました。御意見、御質問、自分はこんなふうに思ったとか、こんなところがよかったとか、いろいろあるかと思いますが、ぜひこの機会ですから、手短かにですけれども、お願いします。いかがでしょうか、皆さん。前村さん、山崎さん、JPNICさんはまた例年どおりプログラム委員会の内外で大変お世話になって、ありがとうございました。何か感想とかございますか。

【前村】 わざわざ言及していただいてありがとうございます。プログラム委員会のほうがコーディネートしてつくっていった分、きっちりしたセッション、プログラム内容になったんじゃないのかなと思います。私自身も、幾つかのアイデアを出したり、当事者としてセッションに乗ったりもして、必ずしもPCが登壇者に求めるという意味では、ちゃんと行儀よくしたかということ、長ったらしくしゃべっていたりもしたので、そういうのは恐縮しておりますけれども、よくできたんじゃないかなと思います。

山崎のほうも、すごく頑張って、奮起、奮闘してくれたのでよかったなと思っております。

皆さん、ありがとうございます。

【加藤】 皆さん、いかがですか。ほかにコメントとか、こういうところがよかったとか、ぜひそういうのを次に残すという意味で。プログラム委員会のときにも、私、申し上げたんですが、昨年、プログラム委員会でいろいろとテンプレートを作っていたりとかしたのが今年はさらに生かされて、うまく充実されたんじゃないかと思えます。そういう意味で、この経験が今後も生かせるようなステップになったのかなと思います。

それから、少なくとも3日間のうち1つでも出席したという人が、発表者とかは除いて252名いらしたというのは、過去日本でIGFの関連の会議をやった中では記録的な数字なんじゃないかなと思います。3日間延べ人数で言うと371名ですか。それと、注目したいと思うのは、申込みが292名で、そのうち252名は実際に参加されたというのは、これを知ってぜひ少しでも聞いてみたいと思う方がそれだけいらしたというのは、すごく意味があったかなと思います。

それから、アンケートの中で、アンケートの母体自身が39名ということで若干少なかつたんですけれども、3分の2ほどが初めてIGFの話を聞いたということだったように思います。そういう意味で、まだまだIGFの活動を日本の中で普及すれば、興味を持ってこうやって参加していただく方がいるという、今回はそれを掘り起こす一つのステップになったのかなと思いました。

本当に何度も繰り返しになりますけれども、プログラム委員会の方々、関係者の皆様、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

いかがですか。特に追加のコメントはないでしょうか。

なければ、飯田様は参加されましたでしょうか。まだおいでになっていませんか。

【飯田】 遅くなりました。すみません。飯田です。

【加藤】 ありがとうございます。じゃあ、ちょうど順番として、2022年が終わったので、2023年ということをお願いいたします。

【飯田】 今の準備状況をお知らせしますが、前にたしか官邸プロセスの話をしたかなという気もするんですが、してなかったらすみません。どこでどの報告をしているかだんだん分からなくなってきています。ただ、まだ開催の時期と場所の最終決定を全部政府内でクリアを取れていないので、実際には、エチオピアでオープンにするまでは公式にはオープンにできないんですけれども、皆さんと共有するのが最後の機会になるかもしれないので、お話をしておきたいと思います。

取りあえずこれはこの場限りにしていただければと思うんですけれども、一部の方は既に御存じかもしれませんが、来年は京都でで開催することになる予定でして、時期が通常よりちょっと早く、10月8日から12日にかけてという、10月に入って割と間もなくの時期に開催になる予定です。これは会場の都合とか、国連側の都合とかいろいろなものを併せての都合になります。この日程と場所については、まだ政府内で総理官邸までクリアしないといけないので、まだ大っぴらにできないんですけれども、エチオピアの会議のときには当然公表しますし、それまでに変わってないといいんですが、だんだん皆さんに浸透しつつあるとも思いますので、今日案内をしておきたいと思います。

無事にこれでクリアができれば、エチオピアで、国会の開会中でもあり、現地には行けないと思いますので、総務大臣からオンラインかビデオ、多分ビデオだと思いますけれども、挨拶する中で公表するという予定になっています。ただ、実際には、厳密に言うと、もうブースとかほかの場所で京都だと分かる部分があると思いますけれども、そこはある程度現実的に準備をできていますので、やむを得ないところだと思っています。

あと、協議会が立ち上がっていただけたと思いますので、政府内も準備委員会的なものをつくりながら、協議会と連動してやっていくことに多分なると思いますし、ロジとかいろいろなことについては、またそういう筋のプロの方にもお願いすることになると思いますので、ぜひ協議会、あるいは活発化チームに参加していただいている皆さんには、サブスタンスのところ、日本のインターネットガバナンスの議論からどんなことを発信していきたいか、そして、10月ですから思ったより早いですけれども、その会議が終わった時点で、それをどうその後に生かしていくか、引き継いでいくかということも念頭に置きながら、あともう1年足らずになるわけですが、準備を進めていただければというか、我々も一緒にやりますので、一緒に準備していければと思います。

あと、今年のエチオピアについては、今お話ししたとおり、総務大臣のビデオレターをこれから用

意することになると思うんですが、国会との関係で言うと、我々も恐らく政務は出張できないかもしれないなと思いつつ、ミニマム総務審議官以下で現地に入ると思っていますので、そこで幾つかセッションに参加をして、中身もそうですけれども、来年の宣伝を一生懸命していきたいと思っていますので、そういう中から世界中からの参加者が来てくれることを祈りながら、今年のエチオピアのセッションをやりたいと思っています。

今年のエチオピアの対応の中では、来年に結びつくようなセッションに少しでも顔を出そうと思っ
ていまして、データの関係ですとか、インターネットのいわゆるシャットダウンとかリストラクショ
ンの関係は意外とセッションが多いようですので、そういうところには顔を出したり、中にはAIとか
もあるわけですけれども、できるだけ顔を出すだけじゃなくて、いろいろ皆さんの議論を聞いて、来
年のIGF@京都が充実したものになるようにしていきたいと思っていますので、またその辺も皆さんからい
ろいろ教えていただければと思っています。

もしエチオピア、現地にいらっしゃる方がいらっしゃれば、参考までに教えておいていただけると、
現地でお会いしたり、あと、何かコラボできる可能性もあるかもしれませんので、よろしくお願いい
たします。

以上になります。

【加藤】 飯田様、ありがとうございました。皆様、質問とかございますか。大丈夫ですか。せっかく。
ひょっとすると、エチオピアが近づいてきて、あまりこの後詳しくお伺いする機会がないかもしれま
せんので、ぜひこの機会に質問等あればお願いします。本田さん。

【本田】 すみません、まだばたばたされているところかもしれないんですが、2023のタスクフォー
スとの連携というところではあると思うんですが、IGFの準備そのものよりも、その前に先立って国民
とか様々なレベルでの広報体制というのを強化していただきたいというのがあると思うんですね。IGF
をやることはもちろんなんですが、我々がこの前やったイベントのフォーラムもそうですが、それを
どういうふうに広報するかというところについて、今後さらにどういうふうな形でプランがあるのか
というのは、今でなくても、またその時々に応じて共有していただければなどというのは意見としてあ
ります。

【加藤】 ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。もし今日、後でも飯田様への質問
等あれば、せっかくの機会ですので、よろしくお願いします。

ということで、河内さんはまだ参加じゃないでしょうか。

【山崎】 まだ参加いただいてないです。

【加藤】 そうですね。飯田様、MAGはこの二、三週間で何か大きな変化があったということはない
ですよ。

【飯田】 すみません、実はMAGはもう出られてないんですけども、もうこの段階ですので、特に
何か変化があったとはあまり予想しておりません。

【加藤】 そうですよ。何かアップデート等あれば、もう公表するぎりぎりのタイミングなので、
MAGで何か審議して決めるという段階じゃないような気がするんですけども。

【飯田】 どちらかという各セッションのオーガナイザーからの連絡が飛び交っていまして、こっち

のセッションにも出るとか、あっちのセッションがどうだとかというようなものが今やり取りされていますので、大枠はもう変わらないんだろうと思います。

【加藤】 分かりました。もし何かMAGから緊急連絡等があれば、河内さんに改めてメーリングリストでお願いするというので、次に移らせていただければと思います。

じゃあ、議題の7番目にあります日本IGFタスクフォースですね、前に協議会とっていただいていたものについて、前村さんのほうから状況を教えていただけますでしょうか。

【前村】 前村でございます。状況を説明、報告しようと思います。本日の報告はちょっと気が重くて、おわびしなければならないことが1つあります。

まず、タスクフォースという仮称にしていますが、これがかなり受け入れられて、タスクフォースというのが板についてきたという状態です。それで、前回の活発化チームの会合のときに設立文書群をお示しして、設立発起人になるのはいかがかという提起をさせていただきました。そのときにも、賛否いろいろな意見をいただきまして、それから、メーリングリストで幾つか意見をいただいています。

こういった場合、加藤さんのほうからも、本日それを決めにかかろうということで、議論喚起をしていただいて、私のほうとしても、それを本日決めるためには、きれいな決議文というのか、テキストにして、明確にこういうことを我々は合意しようという資料を作らないと、多分決議にならないだろうなと思いつつながら、準備をしなければならなかったんですけども、本日それが間に合っておりませんで、そういうレベルの決定が活発化チームの中でできない状態になってしまっていて、準備が足りておりませんというところが大変申し訳なく、おわびするところであります。

その次に、タスクフォースのほうの準備は準備で、準備状況を説明してまいります。まず1つは、設立発起人の候補として、JPNIC、JAIPA、IAJapan、WIDEプロジェクト、そして経団連と考えておりました。それで、インターネット前提の世の中であり、経済であるということなので、ぜひとも経団連にも参画いただきたいとお願いをしていたんですけども、なかなかこれが成就というのか、聞き入れていただけないということで、一度、現場というのは産業技術本部というところなんですけど、タスクフォースの関係で言うと、本日、木下さんはおいでだったと思うんですが、まだおいでですかね、木下(IAJapan)さんと私ということで、2人で産業技術本部の方々とお話をして、その結果、経団連として、民間の団体の会員になって参画するというケースがまずほぼないということで、そういった意味では、会員になれないし、まして、いわんや設立発起人にはならないということで、明確なポジションを示していただいたと。

それで、役員に出馬いただければ、もうそこで大所高所からの意見いただければいいんですがということをお申ししても、役員が出ていくということは、職員がきちんと準備をすると血の契りで決まっているということをおっしゃって、そういうところは非常に明確であり、妥協がなかったというところなんですけれども、一方で、会員ではないんですけども、経団連さんのほうの言葉遣いとしては、協賛という言葉をお使いになっていたんですけども、協賛団体として、情報発信というのか、会員のチャンネルに対する情報流通をしていただくという形で参画というのか、名を連ねるというのはできることなので、そういったことを考えてくれないかと言われていたというのが経団連の状態です。これは受け入れざるを得ないだろうなと思っています。

並行して、設立総会というものを調整してまして、これは村井さんに会長になっていただこうと

思って計画しておりましたので、村井さんの都合に左右されるんですけども、もともとは今秋に設立、発起をしようということ saying it was necessary, but it was a Friday for the association. So, the status is a bit unclear. In any case, the status is as it is. So, as a result, due to Mr. Murai's convenience, on November 22nd, next Tuesday, the timing of the establishment meeting is decided, and preparation is made for that. Tomorrow morning, but even so, for the preparation, we will try to do it as soon as possible. So, for this timing, the establishment will be done as it is.

というわけで、このタイミングもいつになるかというのをにらみながら、経団連の状況を片方では追いながら、一方で、今から経団連の扱いを新設して考えていかなきゃいけないということで、作業がいろいろありますということで、その辺の事情で、本日はきちりとした決議文のような明確な形で資料が準備できなかったということでありまして、大変その点は申し訳ないと思っております。

それで、設立発起人になってはかがかかと申し上げていたのは私なんですけれども、この状態であるよという決断ができるのかというのはよく分かりませんが、少なくともタスクフォースに会員としてお入りいただくというのはもちろんお願いしたいということでもありまして、本日は、それに向けた議論と意識合わせができればいいのかなと思っております。

私からは以上です。

【加藤】 ありがとうございます。皆さん、質問とか意見はありますか。本田さん、お願いします。

【本田】 経団連が入れないということで、個人的には残念に思っているんですが、私、気になってJPNICのサイトを調べてみたら、2004年8月に似たような名前でインターネットガバナンスタスクフォース、IGTFというのが設立されていまして、そのときはIAJapan、JAIPA、JPNICにJPRSの4団体でこのタスクフォースがあったと。私、あまり詳しく知らなかったんですが、当時は、WGIGのときに意見書を出したりとか、そういうことをやっていたと。だから、そういう意味では、今回は今ある4団体、今言われた4団体が一部変わってはいますけれども、設立発起人であることは極めてきれいな形かなと思いますので、どうしても発起人に我々活発化チームが入らないといけないというところでもないのかなという気がしています。

ただ、もちろんタスクフォースの一員となることについては、私は当然になるべきだろうと思うし、なることに合理性もあるのかなというところですね。経団連さんの事情は何とも、いかんともあれですけども、そういう意味では、組織の中に入っていくことは、タスクフォース側が受け入れてくださるのであれば、望ましいことかなと思っております。

【前村】 本田さん、ありがとうございます。

【加藤】 ほかの方はいかがでしょうかね。高松さん、お願いします。

【高松】 この場で今確認をしようとしていることの確認をまずさせていただきたくて、本日この場で確認するのは、活発化チームが発起人に名を連ねるのか連ねないのかという話と、活発化チームはタスクフォースの会員になるのかならないのか、その2点を話そうという話に今なっていると思っております。よろしいでしょうか。

【前村】 私の理解はそう思っています。私としては、大変恐縮ながら、設立発起人になるための決議

というものが、今の時点で明確なテキストでできなかったという状態で、それが難しいのではないかと考えていますが、そうでなくても、会員になるという議論も前回もあったところですので、その辺の議論と意識合わせをやりたいと思っています。

【高松】 ありがとうございます。続けて私の意見を述べさせていただきます。

設立発起人になるかならないかという点は、前村さんがおっしゃっていた大変調整と準備をされているのかなと思ったんですけども、合意事項というか確認事項みたいなのがきちんとそろっていない中で、時間的にも設立することが決まっているというようなタイムスケジュールの中で、スケジュール的な意味合いで、この場で設立発起人に名を連ねるという決断をするのは難しいのかなと思いました。

もう一つ、実際に名を連ねる、連ねないという中身的な意味でも、活発化チームという団体なのかというのがいまいち位置づけとして曖昧な部分があるのかと考えているので、ほかに設立発起人として名を連ねていらっしゃる組織と並んでという意味でも難しいのかなというのが私自身の意見ですというのが、まずは設立発起人についてです。

会員に参加する、しないのあたりは、そちらのほうに話題が移りましたら、また意見を述べたいと思いますので、一旦以上にさせていただきます。

【前村】 高松さん、ありがとうございます。

【加藤】 ほかの方はいかがでしょうか。

それじゃあ、私から質問してよろしいですか。発起人としての今の会則とか、関連の書類という意味だと思いますが、これが決まらないから発起人になれないとか、検討もできないという意味でおっしゃっているのかなと思ったんですが。

【前村】 まず、1点ですけども、設立趣意書と会則案というものは、今申し上げているものではないです。今申し上げているのは、活発化チームとしてこれを決めたという、何を決めたのかのテキストというものを明確にする必要があると私は思っていて、でなければ、同床異夢な決断みたいなものをしてしまうのは少し危険のかなと、今までの活発化チームでの議論を体験というのか、自分も参加していて、そういうふうになるだろうと思ったからです。

設立文書群に関しましては、今、設立発起人候補の皆さんで順次赤を入れていって、改良していくところで、そちらのほうはそちらのほうでいつか定まって、設立総会のときにはそれを採択するという形になると思います。

【加藤】 そうすると、会則は今ほぼ決まっているけれども、それを活発化チームが採用するということが、何か手続上できないということですか。

【前村】 設立文書群に関しては、ある程度どこでも機関決定をするときに、それ以降もまだちょっと変わる可能性があって、何かそういうのをのみ込んでやるじゃないですか。JPNICもある程度そういうところののりしろがないといけないと思っているので、そこは別に問題はないと思うんですけども、今ここで、口頭で何かを定めるところに活発化チームの我々が行くのかといたら、行かないんじゃないかと私は思ったんです。決めてしまえるんだったら、決定するということはあるのかもしれないとも思います。

【加藤】 ごめんなさい、今の会則の案とか設立趣意書の案というのはもう出ていて、前回、一部見せていただいたわけですが、あれは。

【前村】 指摘もいただいています、それを反映するというのがまだできてはいません。それは、今後、設立総会までに準備をして、設立総会までにはフィックスをするということではありません。

【加藤】 ごめんなさい、それは、メーリングリストで例えば堀田さんがコメントされていたとかということですよ。

【前村】 そうです。

【加藤】 それで、そのものがあるのを、何を決めるのかが活発化チームとして明確になっていないというのは、その前提で発起人に入るかどうかというお話が前回の活発化チームのミーティングではあったので、そういうことで承認しましょうということは今難しいという。

【前村】 私はそう思ったということです。

【加藤】 だけど、それは会則案が何かまだ変わるからということですか。

【前村】 そうではないです。変わったところも、今後、それはどなたかに一任するような形を取るんだろうとは思いますが、それですけれども。

【加藤】 本田さん、もう一度手を挙げられたんですか。

【本田】 整理させてください。要するに、会則そのもの云々じゃなくて、我々活発化チームとして決議したよということが何か紙に残っているほうがよいので、その決議案を前村さんが準備するつもりだったけれども、それはできなかったという、これは活発化チーム内の手続のことについて多分懸念があるということだと理解しています。そういうことですよ。

【前村】 そういうことを申しました。ありがとうございます。

【本田】 はっきり言うと、百何十人ですかね、もっとですか、メーリングリストには登録されているわけで、あいにくここに来られている人が十何人しかいらっしやらないわけだから、ここでえいやと決めてしまうのも変な話だなと私も思うので、やる、やらないという話は、ここでやらないともやるとも決められないような気もしていて、合理的には、電子投票というか、メールアドレスで入れていただいて、皆さんの意見を投票するぐらいしか僕は思いつかんですけれども、ただ、私の意見は、今言われた高松さんの意見と同じで、もうここに4団体、それぞれ法人格のある団体、WIDEはないんですが、いずれにしても活動実績がかなりありますよね。そういう団体があるわけだから、発起人はその方々にお任せして、我々は決議を取った上で合流していくというのが自然かなと思うというのが私の意見です。

【前村】 ありがとうございます。

【加藤】 西潟さんが手を挙げていただいています、西潟さん、お願いします。

【西潟】 ありがとうございます。

今、本田さんがいみじくもおっしゃられて気がついたのですが、どうやって活発化チームというのは意思決定ができるんでしょうか。つまり、定足数とか、そういうものはないですよ。チャーターとか新しいものをつくっても……。

【前村】 すみません、割り込んで。それはチャーターに書いてあって、こういう会合で決を採って、そこで合意があれば、ラフコンセンサスになって、それを1週間メーリングリストでさらしてラストコールをする。ラストコールが満了すれば、それは決議とするという形で決め事は決めるようにしています。

【西潟】 それは認識しているんですけども、ラフコンセンサスとして認識できるのは、例えばチェアがこれはラフコンセンサスですかと仰って、そうですねとなれば一番いいんでしょうけれども、そこからは今前村さんがおっしゃったとおりでいいと思うんですけども、本田さんが言われたとおり、全体の参加者が170名いるうち、本日の会合の参加者が17名という状況で何がラフコンセンサスだという突っ込みに対して、どう答えるのかというのが気になったので、お伺いしたいなと思うんですけど。

【加藤】 実際、メーリングリストでコメントがあれば、コメントしていただくという形で常にやり取りしているので、物理的にこの会合に出る方が少ないからといって、今までもいろいろなことを決められなかったということはなかったと思うんですね。

【西潟】 なるほど。ありがとうございます。そういう意味では、いわゆるメール審議といいますか、メーリングリストを通じた形で適切にやっていただくことをもって、ラフコンセンサスなりコンセンサス、あるいは合意、決議、決定というところに進まれていくということですかね。そういうことであればそのように理解いたします。

【加藤】 そうですね。そういう意味で、3週間前のこの会議でもそういうやり取りをして、今日の前では、その前提で決めましょうということ。

【西潟】 なるほど。そうですね。

【加藤】 その後、何回か私もメールも書かせていただいて、ぜひコメントをお願いしますということもお願いしたわけですけども、大きな意見もなかったというか。

【西潟】 そうですね。メーリングリストのほうは、私も拝読しています。

【加藤】 そうですね。発起人に入ることについても、賛否、特に反対はなかったとは理解しているんですけども。だから、手続的には、決められるかどうかということになると、決められるし、恐らく発起人に入るかどうかもそうですし、今後もし発起人に入らない場合も、会員になるかどうかということについても同じ問題が起こるわけで、手続的には、今言われたラフコンセンサスがあれば、その後7日間特にコメントがなければということですけども、そういう意味で、私、ラフコンセンサスもかなり前に方向性としてはあったと思ってはいるんですが。

【西潟】 いや、そういうことだったと考えております。つまり、活発化チームとして、タスクフォースの発起人になるかどうかという意味では、加藤さんやいろいろな方がいろいろコメントされていたのは、私はそれこそ1週間パリのほうへ行っていて留守だったんですが、その大分前の出来事であるとの認識があって、そこについては特段の反応がないという意味では、ラフはできているので、じゃあ、どこかで1週間取りますかという話だと理解しています。

他方、今日前村さんから説明いただいた状況について、これがこれまでのラフコンセンサスに対して、その前提を覆すほど大きな変更かどうかというのは議論があり得るものと考えます。つまり、今日いただいた経団連の状況を踏まえ、短期的に融通を利かせたやり方にするのは妥当だと思いますが、もう一回ラフコンセンサスからやらないきゃいけないのかどうかみたいな判断というのも、意思決

定のプロセスの議論としてあり得ると考えます。その中で、前村さんとしては、どちらかといえばやり直した方が適当とするほうに近いイメージであると私は受け止めたのですが、この理解で良かったのか確認したく、ご回答をお願いしたいなと思います。

【加藤】そこは、前村さんから、先ほどの趣旨をもう一度説明いただいたほうがいいかもしれないですね。

【前村】今まで申し上げたとおりであったので、私が思ったことを申し上げるわけなんですけれども、きっちり書き物のこういうことを決めますというぐらいのレベルで、かちつとしたもので決めないと、ぐらつくのも困るなという感覚を持っていたので、こういうことを申して、完全にそれはフェールしたなと思っているわけですね。

そういうことを言いながらも、設立発起プロセスというのは何か進んでいって、他方、タスクフォースのほうをあれこれやっている身としては、11月22日というのをぱんと決めざるを得ないということになっていくと、22日の設立が勝手に決まってしまうところに設立発起人として入るというのも何か理無理もあるとか、そういう感じの状況の符合がどんどん進んでいってしまっていて、それがきっちりテキストで落として決議すべきだなんていうところも呼び起こしているのかもしれないですね。すみません、私の中でうごめいている心情のことを説明したということになっちゃったんですけど。

【加藤】それじゃあ、まず上村さん、お願いします。

【上村】議論が何かまとまりかけているところをすみませんけど、前回この議論を行った際には、タスクフォースに参加をしましょうということを決め切ってはいないと思うんですよ。異論はなかったと思うんですけど、我々というのかな、活発化チームとして参加しようという意思を決める上で、例えば趣意書を眺めたり、会則を眺めたりした上で決めましょうということによって前回終わっていると思うんですね。なので、前村さんが書き物の形で改めてというか、正式に意思決定をしたほうがよかったというのは当然なのではないかと思うので、いずれにしても、口頭であれ何であれ、改めて参加することに異議ございませんかというようなアクションが必要なんじゃないかと思って聞いていました。

【加藤】西潟さん、お願いします。

【西潟】ありがとうございます。上村さん、ありがとうございます。そこについては、私も同じ認識です。

次に、そうすると、前村さんがたくさん苦勞されている中でお聞きするのは心苦しいんですが、11月22日のタスクフォースの設立総会がある程度フィックスという前提に立った場合、本日は14日ですよ。発起人は後づけで参加という形はまだあり得るんですか。それとも、後から会員としてという形で、決議の対象自体が変わるという方向もあるんですかね。その辺はどうお考えでしょうか。

【前村】その質問に対する答えを持ち合わせていない。決めの問題でしょうし、私だけが決めるという問題でもないような気がするという感じですね。

【西潟】そうですね。タスクフォースとしてのお考えがあればということです。むしろ今の私の質問は、ここで答えを決めることだったんですけれども、もしタスクフォースとしてのイメージがあればという形で、何かいただければ参考になるかと思います。

【前村】分かりません。私個人の見解になってしまいます。すみません。何も持ち合わせていません。

確認しなきゃいけないと思います。

【西潟】 ありがとうございます。

【加藤】 すみません、堀田さんの手が拳がっています。

【西潟】 じゃあ、私が代わります。ありがとうございます。

【加藤】 よろしいですか。

【西潟】 何かあればまた挙手させていただきます。

【加藤】 お願いいたします。ありがとうございます。堀田さん、お願いします。堀田さん、マイクがミュートのまま。

【堀田】 すみません、聞こえますでしょうか。

【加藤】 聞こえます。

【堀田】 すみません。前回も出られずに、今日もずっと遅れて出てしまって、話が食い違っていたら、擦れ違っていたらすみませんが、まず、メールにも書きましたけれども、ある意味日本の中でというか外国で実経験をしているチームが活発化チームだったもので、何らかの貢献はしたいというのは間違いない事実で、私もそうだし、皆さんもそうだと信じています。

それで、したいということとできるかというのはもちろん別のことで、2つ大きなことが気になっていて、会則上はTFの会員というのは投票行動をやることになっていきますね。投票行動を活発化チームができるのかどうかということは、形式的に投票行動ができない会員が正会員であるということはよくないことだと思うので、それがまず1つですね。

それから、もう一つ大きな点は、活発化チーム自体というのがステークホルダーであって、チームメンバーそれぞれの意見が違うことを旨として活動しているわけですね。意見を交換することをモットーとしているので、例えばTFの中でサブの委員会とかできて、そこに誰かが参加する。それはもしかすると加藤さんかもしれないし、ほかの人かもしれないですが、誰かがしゃべるときに、個人的な意見をしゃべるしかないと思うんですけれども、そういう個人的意見をTFの場でしゃべることがTFとして看過できるのかということと、それから、我々活発化チームとして、それが活発化チームです、みんなばらばらだからそれでいいんですと思うかどうかというのは、ちゃんと解決しておかないと、会員にあること自体に思いにそごが出るんじゃないですかね。貢献したいんだけど、引っかき回すだけということになる危険性があると思います。

この2つが、私、とても心配していることで、これがTF的にオーケーだよというのであれば、それはそれでいいし、TF的に駄目だよというんだったら、もしくは活発化チーム的にそれはひどいねというんだったら、ここはやめておくべきだと思います。何らかの別の形で貢献するというのを探るべきだと思いますというのが私の意見です。

【前村】 堀田さん、ありがとうございます。私からツーフィンガーみたいなレスポンスなんですけれども、活発化チームというところは、今おっしゃったような意味合いで、投票行動ができるのかとか、誰を代表にしてというのは、恐らくはチェアである加藤さんということになるんだろうと思うんですが、そのタスクフォースにおける発言をどういう機構でオーソライズするのかみたいな、難しい言葉を言って、別に難しいプロセスを導入しようというのではなくて、こういうことでいいですよ

ねという感じのコミュニケーションが活発化チームとあればいいんだろうと思うんですけども、その辺を恐らく決めておく必要があるんじゃないかというのが堀田さんの指摘のポイントなんじゃないのかなと思います。

タスクフォースとしてはというのは、私の私見でしかしゃべれないというのは先ほども申したんですが、その辺は活発化チーム側での意思の定め方というのがあって、それが安定的に適用されて、タスクフォースの側の議論に組み入れられるのであれば大丈夫なんじゃないのかなと、大丈夫だと思うんじゃないかと思っています。

以上です。

【加藤】 西潟さん、もう一度お願いいたします。

【前村】 ミュート外してないんじゃないかな。

【西潟】 失礼しました。堀田さん、ご指摘ありがとうございます。そのとおりだと私も思っているところがございます。おそらく2つ考える必要があり、1つは、タスクフォースについては、ちょっと前ですが、今の私が知っている限りの時点の会則では、例えば会員はその組織を代表して発言をしなきゃいけないとか、そんなことは書いてないため、タスクフォース側からすると、例えばの話として、加藤さんが活発化チームを代表されてタスクフォースに入った場合を想像する際、加藤さんがこれまでの経験を自由に発言されることもそうですし、あるいは、活発化チームを代表した形で発言いただくことも、どちらも大丈夫だと思います。

他方、活発化チームからすると、ここはちゃんと議論する必要があり、仮に加藤さんが代表、あるいはあえて加藤さんとは申し上げず、活発化チームを代表する方がタスクフォースに入る時に、この発言に対して活発化チームは一任という形で委任をするのかどうか。当然その場の流れもあると思いますし、あるいは、採決になるときは事前に一回活発化チームに持ち帰らないといけないのかとか、そこまでの時間がない、あるいは軽微な案件であれば、そこは代表者に一任するのかとか、そういったことは、多分堀田さんの指摘のとおり、決めておかないといけないと思います。

その中で、当然にして、タスクフォースのほうも議事録は粒度の差はあるにせよ公表されると思いますので、その中で、個人的な有識者としての部分の発言はさておきとして、代表者の人が正しく活発化チームを代表した行動を取られる、あるいは取っておられることを確認できるような形で、我々もそれはチェックさせていただくという形になると思いますが、いかがですか。そんな感じでもよろしいでしょうか。このチームとして代表を派遣するとなった場合の扱いとしての案を、一般論として考えられるところを申し上げてみましたが、そんな感じになるということで違和感があるのかないのかお聞きしたいと思います。

【加藤】 堀田さんがもう一度手を挙げていただいたので、堀田さん、お願いします。

【堀田】 すみません、本田さんのほうが先なんです。

【加藤】 そうですか。気がつかなかった。失礼しました。じゃあ、本田さん、お願いします。

【本田】 順番はどっちでもいいんですけども、西潟さんのおっしゃるとおり、もし仮に加藤さんがヘッドとして、チェアとして出ていただくのであれば、ある程度は委任をするという部分になってくるんだと思います。

ただ、私は、それだけに頼るのは、加藤さんに対しても負担だろうし、それはあまりよくないなと思っていて、どちらかという私が想像するに、この発起人、既存の今いる4者ないしはというところからすれば、皆さんのお知恵を拝借というか、IGFに造詣の深い皆さんのお知恵を拝借、よいアイデアをくださいという、オブザーバーとは言わないんですけども、そういうアイデアマンとしてのアイデアをいただきたいというところだと思うので、そういうところについて、別に意見が多少違ったところでどうのという話ではないのかなとは思いますが、ただ、活発化チームとして出るのであれば、チームの中である程度意見合成をして、大体こうこういうところで票を入れてきますけれどもいいでしょうとか、こういう意見を発言するんですけどもいいでしょうとかという場が、今やっている本会合とはまた別に、IGF2023タスクフォースに向けての準備委員会というか、後方支援をしていくための何かサブの委員会があって、その中である程度突っ込んだ議論をした中で、まとめとなったものが活発化チームから出ていく、加藤さんに限らず、ほかのサブ委員会の頭の方が出ていくとか、そんなやり方のほうがロジカルではないかなというところですね。

なので、チームが投票行動できるかとか、意見を述べるかということは、もちろんイエスなんですけれども、そこにチームとして各個人が、全体が、一人一人が関与できる体制が担保されているのであれば、全く意味がないと思います。

【加藤】 それじゃあ、堀田さん、お願いします。

【堀田】 堀田です。今本田さんが言われたことも真だと、正しいと思いますね。

あとは、分かってないのは、コンテンツを政府に具申するとか書いてあるということは、きっとTFの中にコンテンツに関する委員会ができるんですよね。だと思うんです。例えばその委員会に全部加藤さんが出るのか、あるいは今の活発化チームの中の誰かそこに造詣が深い人、1人もしくは2人、3人が出るのかというのは、多分出たほうがいいと思うんです。だとすると、そういう人をどうやって決めるかというのも、活発化チームとしては決めておかなきゃいけない。

その人たちがTFの委員会の中で何をしゃべるかというのは、ある程度はちゃんとした人が活発化チームの中から選ばれているはずなので、それはそこそこ信用していいだろうと、逆に言うと、信用しないと物事が動かないなと思いますので、そのようには思いますということで、TFの中の委員会構造とか、そこに活発化チームから誰を送るべきか、それに対応して誰を置くべきかを決める構造というのが必要だと思います。それが活発化チームのメーリングリストに入っている200人か100人か分からないんですけども、それだというのは何か違うなという気がしますよね。

実際、投票行動については、今我々が持っている7日間の期間内に反対意見がなければオーケーみたいなのでいいと思うんですけども、その提案をするのが誰かというのを決めておかなきゃいけないですし、ということだとすると、会長がいるとしたら、会長をサポートする運営会議、運営チームみたいなのがきっちり定義されて、それももちろん反対意見がなければその7人でいいよとか、そんな感じでもいいとは思いますが、構造がないと動けないというか、ちゃんとした動きができない、役に立つ動きができないと思います。

あと、もう一つ、別の観点でしゃべらせてもらおうと、TFの中で正会員かオブザーバーしかないというのは、オブザーバーも今は書かれてないんですけども、正会員しかないというのは本当にいいのかな、TFのほうで考えていただいたほうがいいと思うんですけども、そこに何か投票権のない専門家委員みたいなのがあってもいいのかもしれないですね。つまり、本田さんとかがさっきおっしゃ

ったように、やってきた人、専門家の意見を聞くという構造がTFにも必要ですよというのはそのとおりだと思うので、TFの中に意思決定に関わらない専門家というのがあるのであれば、活発化チームは動きやすいかなという気がしています。

以上です。

【前村】 ありがとうございます。私からツーフィンガーでコメントいたします。

今のタスクフォースの議論の中では、運営委員会というのが会員の代表の方々が集まって物事を決めるところで、具体的な作業をする場合には、恐らくワーキンググループみたいなものをつくったほうがいいだろうと。運営委員の方々が直接でやるのではなくて、少し手間を取るような作業をするというものをつくるんだらうと。そうすると、ワーキンググループのメンバーというのは、通常よくある形だと、会員の団体や企業の誰か別の人という感じの構造になるのかなと思っています。

それで、もう一つ、オブザーバーに関しては、総務省をオブザーバーとするというふうには、端的に総務省さんとのリンクをつくるためにオブザーバーというのをつくっているんですけども、それ以外には、この報告の最初のほうで申し上げたんですが、経団連さんが会員にはならないけれども、彼らの言葉で言う協賛というステータスで関与しますよと。彼らの協賛のイメージというのは、会員企業に情報を提供するチャンネルとして使うということで、そういったものはつくろうとしているので、そういうことも会員以外に何かあるのかというところのお話としては付け加えておきます。

専門家の委員会というものも、確かにひょっとして必要になるのかもしれないなということなので、指摘は分かりまして、それはタスクフォースのほうに少しフィードバックしてみようかなと思います。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。ほかにありますか。さっきお名前を拝見したんですが、立石さんのお名前があったんですが、同じようにJAIPAさんも発起人として入られるということで、何か前村様のコメントに補足するとか、意見があればと思ったんですが、いかがですか。

【立石】 立石です。自分も両方の冠ですけども、我々としては、タスクフォースに入ってほしいなとは思っています。入った後どうするかという話は、いろいろスキームはあるとは思いますが、個人的には、JAIPAもそうなんですけれども、その部分に関してはこの人に任せて、例えば加藤さんが入っちゃって、加藤さんばかりというのは、またそれはそれでいろいろ問題が出ると思うんですけども、そういう人間が替わるとか、サブジェクトによって人を替えるとかというのものもあるかなと思うんですけども、何らかの技術的なとか、決めて、やり方としてはそれなりにコンセンサスを取る方法はあるかなとは思っています。

JAIPAとしては、うちも人数不足なので、どこまでできるかは分かりませんが、できる限りのことをやりたいと思っていますので、その中で、タスクフォースの方に入っていただくというのは、できるだけお願いしたいと思っています。

ただ、1つは、経団連さんがああいう状況で、入らないといけないけれども、いろいろ習慣的にそういうことがないということは、それはそれで私も理解はするんですが、協賛だったとしても、もうちょっと理解していただいてから入っていただいてもいいのかなという感じがしています。取りあえずそんなところですよ。

【加藤】 ありがとうございます。ほかは皆さん、いかがですか。高松さん、もう一度お願いします。

【高松】 会員として参加するかどうかというところなんですけれども、タスクフォースのワーキンググループとか分科会みたいなのが将来的にできるとして、そこはタスクフォースの会員になっておかないと入れないものなのかという点が気になりました。もし会員にならなくても活動として参加できるという形が取れるのであれば、活発化チームは別に会員になる必要はないのかなと個人的には思います。

いつもの理由が、結局、私の理解では、活発化チームはNRIではない、なれなかったという状態だなと思っていて、だけど、日本のインターネットガバナンスみたいな議論を盛り上げていきたいと思っているグループであるとなったときに、今度のタスクフォースに会員として入りましたとなったら、NRIって何だろう、どう思われるのかなとか、すみません、そういう見栄え的なところも少し気になってしまったというのが1つありました。

あとは、全然別の細かい話なんですけれども、会則を拝見したら、会費を納入するみたいな記載があったなと思っていたので、会員になった場合の会費は活発化チームからどうやって集めて、どうやって、誰が払うんだろうあたりも気になったというのが実務的な面では1つございました。以上です。

【前村】 ツーフインターでコメントします。会費に関しては、一般的な任意団体の会則を引いてきたので、会費を取ることができるはあるし、予算を編成するとか、事業計画を書くとか、あるいは会費に合わせた特典とか、いろいろなことが書かれているんですけども、その辺に関しては、設立総会で明確に予算を編成しないという決議をしておかないと、そこがオープンになるのはよくないだろうなと今のところ思っています。

それで、それより積極的に、これは小畑さんから私信でコメントいただいたんですけども、明示的に会則から落としておくほうが安全だねという指摘もいただいているんですが、あと1週間だったらもう固まっていはいはずなんですけれども、タスクフォースとしては、できるだけ難しいことにならないように対応しようと思っています。

それで、ワーキンググループに関しては、まだ会則上でどこにも書かれていないものなので、決めの問題だということでもあるんですが、例えば会則に書いていないからワーキンググループがつくれないということもないだろうと思うんですよ。運営委員会として、会員の総意でつくろうといたらつくれるんだと思うんですけども、それにしても、何でもつくれるかというあたりは、いろいろな制約というのはおのずとあるだろうと思うんですが、例えばワーキンググループの中に外部の方を入れていいかよくないかというあたりは、そろそろ逐次運営委員会で決めればそうできるということよりも、ちゃんと書いたほうがいいのかという感触が、私、ペンホルダーとしてはあります。その辺も決めの問題なので、適宜決めなければならぬなと思いました。ありがとうございます。

【加藤】 西潟さんが手を挙げていただいています、お願いします。

【西潟】 ありがとうございます。高松さんのご発言について、私から質問というか、明確化したい点があり、聞き違っていたら申し訳ございません。活発化チームがNRIになれなかったというような発言をされたと聞こえたので、気になって発言させていただきます。NRIというのはジュネーブ（国連）との関係、ジュネーブはIGFの本部ですが、その事務局との関係では、いわゆるNRIとして認証を受けている団体があり、その団体の系譜を引き継いで、今アクティブなのは活発化チームというのが私の認識ですが、それで合っていますか、違いますかというのを教えてください。どなたか分かる方がいらっしゃいましたらお願いします。

【高松】 前村さんが手を挙げていらっしゃるの、その説明をされようとして。

【前村】 それだけではないんですけれども、これは人によっていろいろな捉え方があるんじゃないかと思います。活発化チームは、Japan IGFのコーディネーショングループを含んでいて、それよりもたくさん輪を広げているという状態なので、系譜を引き継ぐという表現はそれなりに正しいだろうと私は思っています。

その上で、活発化チームがNRIかという、ちょっと曖昧なのかなと思っていて、例えば国連IGF事務局はあまり気にせずJapan IGFと我々のことを呼ぶのかもしれないんですが、活発化チームの中の方々は、これをJapan IGFと呼ぶのは何かおかしいんじゃないかとお考えの方もいらっしゃるんだらうと、そこは意識の統一ができてない状態なんじゃないのかなと思います。

【西潟】 いや、というのは、私の理解が異なっていたらご指摘いただきたいのですが、IGFの本山、国連からすると、NRIは各国に1団体しかないはずで、Japan IGFがその認証を受けているというのがまず私の理解としてあります。そういった意味で、Japan IGFがNRIを返さない限りは、多分次のNRIは出てこなくて、あとは、Japan IGFがアクティブかどうかというのは、認識の相違も含めて議論の余地があるかもしれないけれども、少なくとも今前村さんがおっしゃったとおりで、活発化チームはJapan IGFに入っていないという説が成り立つとすると、またこれはややこしくなると考えますが、そういうことであればそのように理解いたしますが、前村さんに今いただいたところは、そういうことを仰られたという理解でよかったですでしょうか。

前村さんから反応していただきましたが、私は「系譜」という言葉をあえて選んで申し上げたつもりで、つまり、法律用語で言うと承継になると考えます。しかし、Japan IGFと活発化チームはその行為は取っていないと考えています。

【前村】 そうですね。

【西潟】 実質的には承継ということですね。任意団体の活動なので、そんな目くじら立ててどうこう言う話でもなく、訴訟という話でもないのでしょうかから、あえてそういう言葉を申し上げましたが、組織的にあるいは現象として、実質的に承継しているという理解でした。何が言いたいかというと、もしJapan IGFがNRIとして認証を返している、あるいは、逆に、ジュネーブから見たときに、これはもうNRIじゃないと判断された時には、日本にNRIがないという状況になると考えます。

他方で、チャンゲタイさんとかとお会いになった際、私はその場にいなかったのですが、どのように紹介されたか一言一句は聞いておりませんが、彼らは、少なくとも活発化チームがNRIであると思っていると思ったのですが、その辺は現場にいらっしゃった方の見解もお聞きできればと思います。

【前村】 彼らは、Japan IGFだと思って対応したと思うんですね。これは、ひとえにJapan IGFのコーディネーショングループと定義されているグループがきちんと処理をして、新たな定義を置いて、リチャーターというんですかね、IGF事務局にもこういうことでございますと言えば、アップデートされるんだらうとは思いますが、という状態ですね。上村さんの手が挙がっていますけれども、活発化チームとしてやろうとし始めたときに、何でJapan IGF以外に別のものをつくるんだと上村さんがおっしゃって、確かにそういう言い方はあるなと思ったことを印象深く覚えております。

以上です。

【加藤】 それじゃあ、上村さんから。

【上村】 以前も西潟さんのお話を聞いて、何かのタイミングでちゃんと説明したほうがいいなと思ったことがあります。それは、まず、NRIの認証というのがあるかということ、少なくとも日本はないと思います。我々がNRIですと名のりを上げて、そういうふうを受け止められたということだと思います。実際はもう少し細かいやり取りがあったと思いますけれども、相互に何かを交わしたということではないので、そういう意味での認証ではありません。ただ、UN事務局がそう見ているのはそのとおりだと思います。

それで、当時NRIとして認証というか、我々がNRIですよ、これがNRIですよとして始めた活動は、私には現在空洞になっているように見えています。それは、Japan IGFコーディネーショングループという組織をつくって、当時の総務省データ通信課の企画官だった高村さんとかにお入りいただいた頃だったと思いますけれども、そういう形で作ったコーディネーショングループというのが現在は空洞化しています。ただ、その活動に参加したほぼ全ての人が活発化チームに参画をしているので、メンバーがスーパーセットであるという意味では系譜は引き継いでいるかもしれませんが、コーディネーショングループとして始めた活動が現在空洞になっているという感じだと思います。

それから、japanigf.jp（ドメイン名）などのリソースをJPNICにお膳立てしていただいているからということも恐らくあって、同じメンバーが同じように使っているの、UN側から見ると、人も同じだし、URLも変わってないし、引き続きJapan IGFだよなというふうに見えているのが実態だと思います。ちなみに、先日のチャングタイ氏の挨拶では、マルチステークホルダーアドバイザリーグループのような言い方を我々に対してしていましたので、きっと日本もそうなんだろうなと思って見てくれるに違いありません。

ということで、私も高松さんがさっきおっしゃったNRIになり切れなかったという話には賛同するところも結構あって、なぜ賛同するかということ、こういう過去の整理がしっかりついてないからという意味です。

以上です。

【加藤】 私からも補足させていただくと、今上村さんが言われたとおりだと思うんですが、先日チャングタイさん御一行がいらしたときも、実は、アーニャから、今コーディネーターとして指名している人はいないんだけど、ここにいらっしゃる方の何人かはコーディネーターへの連絡のメールを毎日のように、山のように受け取っていると思うので、そういう形でフォローはしています、それがかなりワンウェイになっていて申し訳ないという話をアーニャとはしまして、それはよく分かるので、それを複数にするなり、もう少し仕事を分散するなりして、ぜひ継続してほしいというようなコメントがありました。そういう意味で、国連側からすると、活発化チームがそういう役割を果たしているという意識はあるんじゃないかと思います。

前村さん、また、手を挙げていらっしゃるんですかね。

【前村】 はい。これは宙に浮いているというような表現もあったんですけど、活発化チーム、IGF2023に向けてとつけていますが、IGF2023を契機に、国内IGF活動を活発にするという活動をやっている我々なので、組織化というものが、今タスクフォースのほうの流れを引き寄せながら、止まっているわけなんですけれども、IGF2023の挙行をもってタスクフォースの仕事が終わった暁には、きちんとした組織化をやって、NRIとしてきちんとアップデートして、アップグレードしてというのがイメージですので、そこに向けてやっていきたい、それに対して時間がかかっているというような状態

だというのが私の理解です。

以上です。

【加藤】 西潟さん、若干曖昧なところが残っていますが、それでよろしいでしょうか。

【西潟】 分かりました。大丈夫です。ありがとうございます。変なところにかみついていたらすみません。

【加藤】 いや、とんでもないです。非常に重要なことで、実は、チャンゲタイさん御一行のときに、私もNRIの件で我々としてもできることは十分できていないというのを最初に申し上げまして、そういうやり取りもあって、その後アーニャともそんな話をしましたということです。

あと、皆さん、この件で意見はありますでしょうか。活発化チームがタスクフォースの発起人に加えていただくのか、そうでなくても、その後会員になるのか、そのためには活発化チームが何かをしないといけないのか、そもそもそれが無理なのかとか、その辺について意見はありますでしょうか。本田さん、お願いします。

【本田】 そもそも前村さんが最初に言われたことに戻る提案ですけれども、現状、発起人については流動的なところもあるようですし、今日、まだ議論が深まったという状態であるように見受けられますので、発起人になることは、時期的に設立総会が来週ということ、もう実質的に間に合わないと考えられますので、それは見送るとしても、そこに入るということ、何らかの形で加入することと、加入するに当たって活発化チーム内の体制をどうするかということは、継続審議としていただくということを提案したいと思います。

【加藤】 ほかにいかがでしょうか。堀田さん、お願いします。

【堀田】 堀田です。現実問題としては、今本田さんがおっしゃったように、継続審議でということになります。そのときに、どんな会則が出てくるのか最終的なものが見られるわけで、それを検討するということですね。

1つ気になっていたのは、説明があったのかもしれないんですけども、経団連さんはなぜ正会員では嫌だと言ったんですかね。

【前村】 説明してよろしいですか。経団連として、民間団体の会員になるというケースがほぼないらしいんです。なので、文化として、慣習、経団連の仕事のやり方として、会員という線がないということだと理解しました。

【堀田】 形式的に。

【木下】 前村さん、木下です。

【前村】 はい。木下さん。

【木下】 発言させていただいていいですか。すみません。何だか知らないんですが、私のZoomに挙手するアイコンが出てこないのが苦勞したんですけども。

【前村】 リアクションの下にあります。

【木下】 経団連さんとの先週金曜日の面談に同席させていただいて、その場で理解した内容を少し補足させていただきます。

まず、経団連というのは、経団連の中で政策提言とかをする部会が主の活動になっていますということで、外部連携というよりは、内部の活動が主体で動いている経済界の団体です。そこが主です。その主を大切にしながら、外部との接点の持ち方ということで、基本的に会員という形で関わっていることはないということをおっしゃっていました。ただし、賛助会員とかアドバイザーとか、そういううちの中での政策提言活動に加えて、外部との協調、連携をするという実績があるので、そのような形で今回もIGF、インターネットガバナンスに関しては、今中でやっている作業部会の活動と重複しているといいますか、オーバーラップしている領域は複数あるようなので、連携を図ればということをおっしゃっていました。そのぐらいかな、すみません。

【前村】 木下さん、ありがとうございます。

それで、私から意見を述べたいのですが、まずは、準備ができてないと冒頭申しましたが、堀田さんが指摘いただいたような、そもそも活発化チームが会員となって、団体で活動する上で、どのように代表してもらうか、どのような意見表出をするのかといったものは、硬くしゃべっていて、硬いものをつくりたいわけではないんですけれども、少なくとも、決めておかなければ難しいと思う、その意識を合わせなきゃいけないと思うので、それを急ぎつくった上で、タスクフォースへの会員としての参画を承認するというプロセスがいいのではないかと思いました。以上です。

【加藤】 ほかの方はいかがでしょうか。

【西潟】 西潟です。すみません、1点だけ。どなたかがおっしゃった経団連さんの話で、何でという質問があったかと記憶していますが、役人をやっていて思うところとして、経団連さんは会員企業の方が沢山いらっしゃる中で、経団連が会員になると、会員になっている団体の意思決定に経団連が縛られることになるため、会員企業が二重に縛られることになることが考えられます。

もう一つ言わせてもらえれば、会員企業の中で、今回で言えばタスクフォースですが、タスクフォースに両方会員として入る企業が仮にいたとした場合、その企業は間接的に経団連を一会員企業じゃない形で拘束し得ることになると考えます。

そういうのを多分嫌っていると思うので、そういう意味で、団体としての仕切りの問題なのかなと思いました。コメントとして参考になればありがたいです。

【前村】 ありがとうございます。

【加藤】 ほかに意見はありますか。さっきの本田さんの提案とか、活発化チームでどうしようかという提案が出てきている中で、チェアとして私のコメントをさせていただきたいと思います。

チェアとしてというより、個人的な意見ですけれども、まず、今回のタスクフォースの議論というのは、ずっと活発化チームとして法人化をして2023年を支援してということをやってきたわけで、その流れの中で、活発化チームがやりたいと思っていたことの延長だと思います。そういう意味で、タスクフォースもそういう目標を掲げて、いろいろな意見を2023年に向けて具申をしていくということについて、その行動に参加して、少しでも我々からも意見を追加するというのは極めて自然なことであり、活発化チームが今までやってきたことを実現する場としても、タスクフォースもぜひ重要な場になっていくんじゃないかと思います。

逆に、タスクフォースがどう今後動いていくのかということが分からないまま、活発化チームが外から見ていたとしたら、もちろん活発化チームの中でも前村さんとか、先ほどの立石さんとか、直接

参加されていることはあると思いますが、活発化チームとしてそういうフィードバックがないままこのプロセスが動いていくとしたら、活発化チームとしては十分な情報が得られないということになって、よくないのではないかなと思います。

それで、今拝見していたタスクフォースの状況ですけれども、まだかなり中身が流動的で、ワーキンググループをついたらどうかとか、つくったほうがいいんじゃないかということは、多分これからお決めになるのかなと思いますが、もしそういうプロセスがあるとして、活発化チームの皆様が今後参加されたら、活発化チームとしていろいろ貢献できる場をぜひつくってくださいというようなことも言えるのではないかなと思います。そういう意味で、今のタスクフォースの会則案とかを拝見した限りでは、どういう形かというような検討をする必要があるかもしれませんが、まさに活発化チームが何らかの形で参加させていただくというのが一番自然なのかなと思います。

それじゃあ、先ほどの投票行動ができるのかとか、いろいろな意見があるものをまとめて何か活発化チームを拘束するようなことにならないかということですのでけれども、かなりの部分は、もし参加したとしても、これは個人的意見ですがという形で、別に活発化チームを拘束する形でコメントしなくてもいいんじゃないかという発言もありましたし、あと、投票行動としても、先ほどの会費を払うとか、そういう決議をするということが多いタスクフォースではないんじゃないかと、私、勝手に理解しておりました。むしろ、いろいろな意見をそこで吸い上げるということの主眼にされたチームかなと思いました。そういう意味で、もし本当にタスクフォースの何かの決議に関して、活発化チームの皆さんの立場を拘束してしまうようなことがあるとしたら、それはどなたが出ていたとしても勝手にできることではないので、きちんと持ち帰る。もしそれができないなら、その決議については欠席なり棄権をするということになるのかなと思います。

ということで、現時点で私の提案は、タスクフォースには参加する、それで、今日そういう決議をもししていただけたら、1週間ルール、7日間ルールでも21日で可能であるということで、決して不可能ではないということだと思いますけれども、もし参加することに重大な問題があるということで、これができないのであれば、発起人として参加しないということもあるのかなと思いますが、参加するとしたら、積極的に発起人として参加するということを今言ってもいいような内容だと思っていますし、ずっとお話を伺っていただけけれども、活発化チームとして何かこのタスクフォースに参加することが重大な問題を引き起こすようなことが私はまだ見受けられないので、そういう提案をさせていただきたいと思います。

繰り返しになりますか、提案は、タスクフォースに参加することを決議する、時間的に可能であれば本日その決議をして、7日間ルールで可能であれば発起人として参加する、それが無理でも、その後の一般会員なのか会員として参加するというのが私の提案です。意見とか、もうこのままこの場で賛成、反対ということを書いていいのかどうか。いかがでしょうか。時期尚早であるということであれば、そういう意見もお願いしたいと思います。

もう一度、前村さん、いかがですか。前村さんの少し先ということと違うものですがけれども、いかがでしょうか。

【前村】 決議しようとしていることを非常にクリアにさせていただいているので、ありがたいと思っています。

それを言った上で、堀田さんがというふうに何度も言ってもあまりよろしくないと思うんですけど

れども、もちろんそこまで影響が大きい意見表出や決議をタスクフォースのほうですというものではないのですが、対外的に会員になるときの意見表出の在り方みたいなものは整理しておくべきで、それが今まだ整理し切れていない状態だというのは危ないかなと私は個人的に今日の会合を通して思ってしまったっておりまして、その旨申し述べる次第です。したがって、今回ではなく、次回ぐらいで決めて、それまでには意見表出の方法みたいなものを一通り固めて、それと一緒に議決して、会員として入るといった方がいいのではないかと思います。

以上です。

【加藤】 ほかにいかがでしょうか。堀田さん、お願いします。

【堀田】 今の前村さんの言葉もちょっと引っかかるところがあるんですけども、対外的に大したことを会員が決めるわけじゃないんだからと言っちゃうと、こいつは何者なんですかと思っちゃいますね。政策提言を政府に対してするということが大きなことじゃないんですかね。会員になるということは、そこについて我々がコミットするということをコミットするんですよね。

【前村】 分かりました。すみません。大したことじゃないというのは、言葉のあやのようなもので、とはいえ失言だったと思います。訂正させてください。政策提言をするわけなので、その内容というのは真摯に考えるべきです。当たり前だと思います。

【堀田】 そうですね。

【前村】 ただ、お金が絡むとか、そういったものではないということが言いたかったんですけども、訂正させてください。

【堀田】 政策提言をするのは大切なことで、我々はそれをつくるプロセスにコミットします、我々はそれをつくるプロセスにコミットできるような組織というんですかね、活発化チームにすることにコミットしますという両段階があって初めて会員になると今言えると思うんですけども、私はそこまでまだ自信がない。もちろんそうありたいですけども、まだ自信がないというのが加藤さんの質問に対する回答です。

【前村】 いや、堀田さん、私が言いたかった拙い言葉をきちんとした言葉にさせていただいたと思います。そのとおり賛成いたします。

【加藤】 あと、ほかの方はいかがでしょうか。本田さん、お願いします。

【本田】 今ここに表にまとめていただいている記録も見ると、タスクフォースの中の委員会構造というのはまだ決まってないわけなので、逆に言うと、いろいろな形で活発化チームのメンバーが関与していくチャンスはあると読み取れました。未定ですから分かりませんが、そうだろうという。

ただ、我々活発化チームが入っていくということが、今の前村さんの言葉を借りれば、何か道義的なというか、組織的な責任をおつかおせられるようになることではないということなので、そうなってくると、会員として入ることの意味は、チャネルをつくるというか、政府に対しての政策提言をしますというところのパイプづくりになると思いますので、それ自体に入ることは、もちろんというか、それは望ましいことだと思うんですが、必ずしも設立発起人にならないとそれができないというものでもないし、もしくは、もう少し考えたいという皆さんの意見もあるのかもしれないので、設立されてからの参加でも十分間に合うというか、私たちがIGF2023に向けて活発化しようというそもそも

の目的は、十分それでも達成できるんじゃないかと思しますので、そこを拙速に今日決めようとか、もしくは、設立発起人に名を連ねないということでもないのかなと思っているところです。

【加藤】 ありがとうございます。ほかの皆さん、いかがでしょうか。

堀田さんに質問させていただきたいんですが、先ほどの今は活発化チームで十分コミットする形になってないかもしれないという点ですけれども、そういう意味では、参加するためにもいろいろと内部のルールなりを決めないといけないということを提案されていますか。

【堀田】 堀田です。2つあって、内部のルールは必要だと思います。両極端だと、勝手に行って、勝手にしゃべっていいよねみたいなルールかもしれないし、一つの意見にしてからしかしゃべっちゃいけないよというルールかもしれないですけれども、そこは決めなきゃいけないと思います。

それが1つと、もう一つは、私、分からないのは、TF側がうちに対して何を要求してくるか。こうあってほしいという姿がまだよく分からなくて、今までの経験者として経験をしゃべってくればいい、それで会員として認めますというのであれば、それは大分楽ですけれども、本当にそうなのかどうかもまだ我々に対する期待が分かってないという、この2つのところがまだ分かってないというところだと思います。

【加藤】 その点は、前村さん、いかがなんですか。

【前村】 タスクフォースのほうに参与している人間なんですけれども、活発化チームがどういうことができるのかというのか、何を活動しているかというのとはよく分かっているつもりですので、向こうの現場としては、そこに無理がないようにするんだと思いますというのがまずはお答えになるんじゃないかと思います。会員にはこういうことを求めるということとしてまとめたものはなく、設立発起人の中にもまだイメージがないのかもしれないところなんですけれども、例えばエサキさんとか村井さんとかには何かこんな感じでやるのかなというのはあるのかもしれないですが、先生方にしても無理をさせるということも意図にはないのかなとも思いますということです。

【堀田】 ありがとうございます。であれば問題ないですけれども、たまたま設立発起人がとても近い方たちなので、どれだけの実力があるかとか、どういう人たちかというのはいま十分御存じでしょうから。

【前村】 そういうことです。

【堀田】 設立発起人の今のほかの3団体の方は、いいんじゃないと多分おっしゃってくれると思うんですけれども、じゃあ、これからほかの会員を取ってくる時に、兄弟となる発起人が何なのこれということではよくないと思うので、そこはそこでしっかりしないとということのはありますよね。

以上です。

【前村】 ありがとうございます。

【加藤】 また私からのコメントでよろしいですか。今、堀田さんや本田さんも、もう少し検討ということを書いていただいたんですが、それはよく分かるんですけれども、もしこのタスクフォースが2023年に向けていろいろな提案をされるということが今後スタートして、そうすると、活発化チームというのはどういう立場で今後やっていくのかというのを実は私は並行して考えるんですね。

もちろん活発化チームが活発化チームとして、今までの延長でいろいろな活動をしていくというの

は一つあると思います。ただ、活発化チームは、2023年をいろいろな形で支援するという大きな目標としてやってきたわけですから、同じような内容のタスクフォースができて、それに参加させていただく機会があるなら、参加しないということはどういうメッセージなのかと考えると、タスクフォースって何なんだと思ってしまうんですね。

ですから、今、もしタスクフォースにこういうことで入れないということがあるなら、至急入れない点を議論すると。先ほどからずっと伺っていた限りにおいては、それはほとんどないのかなと思うんですが、もし間違っていれば、こういう点が足りないからタスクフォースに入れないんだと言っただけならばと思うんですけれども、そうだとしたら、入れるならなるべく早く入るのが自然なロジックかな、もしここで入らないということになるとすると、活発化チームは明日から何をやっていくのかというか、タスクフォースと違ったことをやっていくのか、その辺を次回の活発化チームから議論しないといけないのかなとずっと感じながら聞いていたんですが、その辺はいかがでしょうか。

堀田さん、お願いします。

【堀田】 ありがとうございます。タスクフォースの会則を読むと、会則にはコメントさせていただいたんですけれども、IGF2023を含めて、IGF参加の質と量を高めるという仕事がかかれてないんですよね。政府を経由して提言を渡すとか、そういうことしか書かれてなくて、それは、逆に言うと、活発化チームと補完関係にあると私は読みました。だから、IGFの参加の質と量を高めるというのが会則の中に書かれていれば、ほぼ加藤さんがおっしゃったとおりで、我々はその中でやったほうが力を発揮できるはずなので、であれば、もちろん中をちゃんとつくるという自分に対するコミットが必要なんですけれども、今入ってもいいのかなと私は考えています。

【加藤】 すみません、これは後で前村さんに確認したいんですけれども、私は、まさにそのこのところの問題で、活発化チームのミッションというか目的は、今回のタスクフォースが言われていることを内包していると思っていたんですね。だから、その部分については、補完関係ではなくて、我々もタスクフォースを通じてそういうことを一緒にやらせていただくという関係にあると思ったんですが、まず、高松さん、手を挙げていらっしゃるの、いかがでしょうか。その後、前村さんから伺いたいと思います。

【高松】 会員になるという部分についてなんですけれども、私は、タスクフォースがどういうことをやろうとしているかあたりがイメージとしてつかめてないところが、自分自身の問題かなと思っています。

私が思うのは、タスクフォースのほうは、どうしても意見を言うときとかタスクフォース内の議論に参加するときに、代表する自分の組織とか団体であるという部分を代表したような声が求められるのかなと思うと、会員になるとかではなくて、タスクフォースに分科会だったりワーキンググループとかがあったりしたときに、政策提言をつくるであったり、こんなことをしようという場を設けるだろうと勝手に想像していたので、そういったところに、別に会員とかとは関係なく、活発化チームのそれぞれの人たちが自分たちの持っている意見であったり経験であったりをもっとインプットしていくというほうが、活発化チーム的にいい形なんじゃないかなと思ったというのがあって、会員になるという形がすごく大事とはあまり思わないかなというのが意見のベースだなと今まで皆さんのお話を聞いて思ったので、コメントさせていただきます。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。前村さんに質問する前に、堀田さんからの点について私がコメントしたのをもう少し別の言い方をすると、活発化チームではできないことをタスクフォースがやるから、そこが補完関係ということになるのか、活発化チームがやろうとしているけれども不十分で、タスクフォースが同じことをさらにやろうとしているということなのか、それが補完関係か、私が思っている内包関係、少なくとも守備範囲としては内包関係なのか、どちらなのでしょう。

【前村】 その辺は、クリアな答えを持ち合わせてないんですけども、IGF2023が盛会になる、呼んだかいたがあった、IGFに対する議論関係が十分できた、日本としていい提言を打ち出すことができたということローカルホストである総務省さんに進言して、実現していこうというところが基本線で、参加を質、量ともに高めるという堀田さんの言葉遣いはとても好きなんです、そういったことを書いていないから、決してやらないということまでは思っていないと思うんですね。やる必要があればやるんだらうと、やるという合意ができるだらうと思っっているんですけど、現時点では、まずはあまり大風呂敷を広げないように、あれもこれもやると書いていないというだけで、やりたい気持ちはあるんだらうと思うんですね。

それで、どこまで、何をやるのかというのはタスクフォースの上で決めることではあると思うんですけども、なので、書いていないということアクティブに読み取って、では補完だというほどの旗幟鮮明とした考えがあるわけではないと思います。一言で言うと、要は、あまりその辺は明確な決めがないということですね。

【加藤】 ありがとうございます。だから、活発化チームの方々もさらに積極的にタスクフォースにも入って、そういうことをしたらどうですか、例えばワーキンググループをつくって、その中にタスクフォースのしかるべきメンバー、私は、プログラム委員会でやられているような方々がまさに経験を発言していただくいい場がつけられるべきなんじゃないかと思っっているんですけども、そういうことを言わせていただくことに意味があるのかなと思っっています。

そういう意味で、タスクフォースは多分まだそこまでクリアに運用方法とか決まっていなくて、ただ、やろうとされていることは、繰り返しになりますけれども、活発化チームがやろうとしていることと違わないと思っっていて、活発化チームだけでは十分やれなかったことを、同じ対象の中でさらにタスクフォースもやろうとされているんだとしたら、タスクフォースに活発化チームを入れていただくとしたら、それに参加するのは自然な流れだと思っっているということなんです。

西潟さん、また手を挙げていただいておりますが、お願いいたします。

【西潟】 ありがとうございます。さっき堀田さんがおっしゃったIGFの活動の質と量をも高める、その部分は、少なくとも前の時点で私がテキストを拝見したときには、タスクフォースのほうには明確には書いてなかったですね。タスクフォースは、もちろん間接的にそういうことに大きく貢献する活動をすることもあり得ると思っと思いますが、直接のアジェンダは、2023のIGFのイベント、国際会議といひますか、カンファレンスといひますか、それをいかにアドバイザーとして総務省を助けていくかというのがトップアジェンダとしてあります。

そういう意味で、どれも直接と間接の関係で、結果的には両者に貢献することになると思っと思いますが、先月の無事に成功おめでとうございました、活発化チームの国内イベントみたいなものは、タスクフォースの直接の所掌のイメージではなく、他方、本番のIGF2023を開催するに当たり、例えばもっと

総務省主催で積極的にイベントをやってはどうかというようなアドバイスをするかもしれない。それはタスクフォースとして中の議論があり、決議を要するというのであれば、それはあり得るんですけども、先月のようなイベントは、まさに活発化チームの皆さんでつくり上げたイベントであり、そういったことはタスクフォースのやろうとしていることではないと思います。

そういった意味では、加藤さんのおっしゃる内包というのが、どっちがどっちを含んでいるのか私はまだ正しく理解し切れてないかもしれないのですが、私からすると、どちらかといえば併存というか、役人的な言い方で申し訳ないんですが、それぞれにデマケ（境界）がある世界と思います。

ただ、今はデマケがありますが、高松さんのコメント、チャットにもありましたが、将来を考えたときに、どっちかがどっちに行くとか、きれいな形で溶け合ってくつつくのか、どちらかが相手方を包み込む形になるのかという様々なオプションは、今後それぞれの組織でも議論されるのであれば、議論した上で決まるものと思いますが、その議論抜きにして、今をどう生きていくかだけを考えるのであれば、2つ団体があっても不自然ではないと思いました。前村さん、もし違う点や指摘いただける点があれば、補足をお願いできればと思います。

【前村】 いや、それは私なんぞか何かを言うというよりも、総務省さんとしてのお考えがそこにあるんだったら、それを尊重してやらなきゃいけないとは思いますが、今の時点で私が何かタスクフォースはこうなるというふうなビジョンを持ち得てないものですから、分かりません。ごめんなさい。

【西潟】 そういう意味で、総務省としての考えはまだ我々もなく、考えというか、誤解のないように補足させていただくと、IGF2023は総務省として招致いたしました。相手がある話で、認められて招致が叶い、今度はイベントの実現に向けてこれから走り出すことになりまして、皆さまからのご協力をお借りしてまいります。その一つとして、タスクフォースがあるというのが私のデータ通信課長としての理解です。

他方で、活発化チームについては、先ほども、細かいことを大分質問させていただきまして、不勉強で恐縮なんですけれども、それがデータ通信課長の現状だと思ってください。それぐらい経緯が複雑で、私も正直、ここまで今日議論が深いところまで来たので、明確化させていただかないと、チャットにも書きましたけれども、率直に申し上げて上司と正確なコミュニケーションができない虞があるので聞いております。

その中で、IGFの本当の意味でのマルチステークホルダーの中で、1ステークホルダーとして政府が位置づけられており、インターネットの部分についても、硬い言葉で恐縮ですけども、情報の電磁的流通という総務省の所管事務に含まれていることがありますので、私が担当として、この会議にもメンバーとして参加しておりますが、これはあくまで1ステークホルダーとしてのものです。もし総務省として、この分野ではそういうものはあまりありませんが、例えば電気通信事業法とか規制に反する虞がありますよとか、そういう話があればご示唆申し上げますが、それ以外は基本的には私も1参加者としてやっていますので、そういう意味では、特にウィルを持っている、総務省の考えとかいうものがあるものでは直接はないです。

平たく言って、情報の電磁的流通がより良くなれば、それがいいというのが総務省の考えであり、私も森下もそうですけれども、あるいは飯田も加藤もそうだと思いますけれども、この中でお役に立てると思うものというのはもちろん発言はいたしますし、お役に立てればありがたいというのが率

直なところですが。逆に言うと、この場では総務省にひたすら付度とか絶対しないでいただきたいくて、そういう意味で、誤解がないように、総務省の考えとかそういうのはないという形で申し上げたいと思います。

【前村】 なるほど。分かりました。承知しました。おもねろうとか付度しようとかしていたわけではないんですが。

【西潟】 いや、前村さんは心配しておりませんが、一応ほかの行儀のいい方のために、念のために申し上げます。

【前村】 失礼しました。

【加藤】 すみません、予定時間を超えてしまって、議論が尽きないんですが、ほかの方々はいかがでしょう。今日は、どういう方向に進むかについて、さらに提案なり意見があればお願いしたいと思います。堀田さん、お願いします。

【堀田】 私ばかりですみません。意見を覆しますが、今の発起人の方々と前村さんの顔とか思い浮かべると、活発化チームが会員になったとして、まだまだいろいろこれから同じ思いで動かせる部分がいっぱいあると感じたので、加藤さんがおっしゃるように、今から手を挙げるというのもオプションとしてありかなと考え方を変えました。以上です。

【加藤】 ほかにいかがでしょうか。繰り返しになりますけれども、前村さんなり立石さんなり、中に入っていらっしゃる方は両方をよく御存じなのでお分かりになると思いますが、活発化チームが貢献できるとしたら、それはお二人が一番よく御存じだと思うんですね。私は伺っていた限りでは、それができるのではないかと考えています。

ただ、活発化チームには非常にいろいろな制約があって、なかなか難しい運営もあるので、これは根本的に問題であると、活発化チームはこのタスクフォースに入れられないということがあれば、今本当にそれをおっしゃっていただいて。ただ、伺っていた限りでは、このタスクフォース自身も任意団体であり、まだフレキシブルであるということで、そういう制約はあまりないのかなと勝手に思っているんですけども、もしそうであるとしたら、私は、繰り返しになりますが、タスクフォースに参加するというので本日決議していただいて、7日間ルールを適用していただいて、最終的にこれは大問題だというようなことがないかどうかを確認するというふうにお考えいただければと思います。

山崎さん、お願いします。

【山崎】 1点確認したいんですけども、加藤さんがおっしゃる参加するというものの定義が厳密でない、後でいろいろ問題になるんじゃないかと思ひまして、発起人としてなのか、そうでないのかというところは。

【加藤】 発起人としてです。参加する決議をしてほしいというのは、今日決議すれば、7日間ルールで21日ということで、22日にも間に合うということだと思いますので、その前提で動いていただいたらどうかと思います。

【山崎】 分かりました。ありがとうございます。

【加藤】 私自身、確かに発起人として参加する、1日遅れて入るのも実質的には変わらないんですが、遅れる意味があまり今のところ見つけられないので、そういうふうに申し上げているんですけども、

本田さん、お願いいたします。

【本田】 だから、発起人として入ることの意味ということについても、まだタスクフォース側が流動的というか、最後の詰め段階にもあるしというところで、ある意味今のタイミング、チャンスであれば、今のというのは、今日やった議論なども踏まえたものが入れ込めそうというような見通しまでは立てたんですけども、ただ、実質問題、まだ活発化チームの中で体制というかそこに追いついてない、タスクフォースというかIGF2023そのものに向けての準備体制というのは整ってない以上、そこはどうかというような慎重意見にならざるを得ないなど。

だから、この段階で、この件については私がリードします、引っ張っていきますという方がいらっしやるのであれば、別にいいのかなと、嫌ですと拒否するまでのことはないんですけども、繰り返しになります、無理な仕事を引き受けても、結局中途半端な形になってしまうので、活発化チームとしてタスクフォースに加盟するという方向性はおおむね今日決めることができたとしても、発起人になるかどうかについては、今日の段階では決められないと思います。

【加藤】 ほかの方はいかがでしょうか。

発起人であるか発起人でないかについて、いつも前村さんに質問ばかりで恐縮ですけども、何か差はあるんでしょうかね。

【前村】 前回の議論にもありましたが、これも取り方はまちまちだと、人によって違うんじゃないのかなと思います。少なくとも今の会則もまだフレキシビリティというのか、可塑性があるといえはああるんですけども、設立発起人を特別なステータスにするということはしていないので、そういった意味では、会員でも全く同じ活動というのか、資格というのかになります。

【加藤】 ただ、その資格というのが、先ほどタスクフォースの運営委員会とかおっしゃいましたけれども、その辺をどうするかということ等を含めて、実際は、少しは案があるんじゃないんでしょうか。

【前村】 いや、今は、設立発起人を特別な資格に置かないというすごくシンプルなことを申し上げたので、今から会員まで入れて、設立発起人を特別にしようぜという話もないわけです。

【加藤】 ただ、運営委員会はどのようなメンバーにするということも何も決まってないんですか。

【前村】 それは、会員がみんな運営委員会に入るという構造を今の会則は取っているんですよ。前回お見せしたバージョンからエディットは進んでいまして、会員というと組織や団体になりますから、会員から1人委員を出して運営委員会を構成しようとしています。それは、設立発起人と会員の分け隔てがない状態になっていると。唯一特別なのは会長で、ここは村井さんをお願いしようということは、心積もりとしてはもう大体固まっているかなと思います。

【加藤】 同じあれですけども、立石さんはまだいらっしやいますか、立石さん、JAIPAさんとしても。

【立石】 はいはい、います。

【加藤】 いかがですか。今のような今後の流れということで、活発化チームが今日どうすべきかということなんですけれども、もう時間を超過しちゃったので、どうするかというのを決める。

【立石】 僕は、加藤さんがおっしゃっていたように、やらないんだとどうなるのという話が1点あるのと、巻き戻しちゃいますけれども、西潟さんかな、おっしゃっていたように、国連、UNのIGFから

見たときに、NRI的というか、NRIに見えているのは当たり前で、それが普通だろうなと私も思いますので、ちょっと前に加藤さんがおっしゃっていたように、これは次まで置いても多分変わらないと僕も思うんですね。だから、一応1週間、それを10日なり2週間にしてもいいと思いますけれども、ロールバックできるということを前提条件にして決めてもいいのではないかなと活発化チームのメンバーとして私は思いますけどね。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。あと、意見はありますでしょうか。本田さん、お願いします。

【本田】 私は、別に何か議論を先延ばししようとしているわけじゃないんですね。前回のときに、ここまである程度の話があれば、もしかすれば私も今日決めちゃってもいいんじゃないですかと思ったかもしれないんですが、今日のようないろいろな話が出てくるのが大事で、前はこれが出てこなかったの、どうするのかなと検討すべきところ、検討すべきアイデアもまとまらなかったというのが正直なところで、特に大事なところで、活発化チームとしての意識合成、意見合成とか、どういう形で代表していくのか、もしくは活発化チームの中から出たい人が自由に出て、その場で参加できるのかとか、そういうところのプロトコルを定めてからでないと、むやみに入るということは適ではないと。

そういうのは、それこそ経団連さんじゃないけれども、それを見習うわけじゃないけれども、経団連さんがおっしゃっていることもごもつとも、あれだけたくさんの大企業が入っている中でぽんと入って行って、むやみに意見を何か言うということでもないよねという感じにも聞こえたので、そういうことを側面として考えてみても、活発化チームという性格の違うものと、タスクフォースという明確なものに対してうまく溶け込んでいける体制をつくってから入っていくというのは別に悪くないことで、逆に言うと、タスクフォース側にああしてください、こうしてくださいと言うのが活発化チームなのかどうなのかなというところにもなると思うんですね。

だから、タスクフォースは総務省に対して具申、提言をする。そのタスクフォースの在り方を活発化チームがつくるのかというと、いや、そういうことではなくて、たまたまメンバーがある程度重なっているだけでありますので、ある意味活発化チームは活発化チームらしいやり方を残して行って、上にあるJapan IGFとの関係の整理とか、そういうところも含めて、より広い視野でやっていければいいのかなと思っています。なので、端的に言うと、今、発起人として入るのは愚策で、適策でないというのが意見です。

【加藤】 前村さん、1つ質問ですけれども、先ほどタスクフォースには具体的に委員のような形で誰か代表が参加されるということですが、それは途中で決議して替えましたということであれば、替わってもいいんでしょう。

【前村】 替えていいとも替えて駄目とも今のところの会則は書いてないですね。

【加藤】 だけど、それでも組織だから、その組織の中で誰か代表が替わるなりということになれば。

【前村】 でも、何かの事情で替わらざるを得ないという事情は勘案しなきゃいけないだろうなとは思っています。

【加藤】 そういうことですよ。

【前村】 はい。

【加藤】 それであれば、今日、本田さんとこれでコンセンサスが取れることを希望しているんですけども、先ほどタスクフォースの発起人として参加する方向で、時間との競争で、ぜひ今日にと提案しているわけですけども、第1回目なりに取りあえず私を出していただくとして、もう一度、活発化チームは設立発起人になるけれども、チームとしてどういうふういろいろな活動をしていくか、さらには活発化チームの代表委員をどう決めるかというか、誰にするかということも含めて見直しを引き続きするという前提で、活発チームが設立発起人として参加するのを提案します。

本田さん、そういうことで、本田さんの御懸念の活発化チームの中の決議が不十分であるとか、プロセスをもう少し検討したほうが良いということ満足できないでしょうか。本田さん、お願いします。

【本田】 端的に言うと、私が一番懸念しているのは、別に中身のことでなくて、私が会合の運営について提案しますとってまだ資料を出してないんですけども、我々がやることは、もちろん2023に向けて、そして、2023以降もIGFが日本で活発化していくということなので、やること自体は全然異議はないんですが、やり方がどうしてもこのことだけで話が終わっちゃうので、今議論できたことはすごく望ましいことだと思うんだけど、ほかの本来4項目ぐらいあったものがまだ今日もできていないわけで、毎回何かのたびにこうになってしまうのは本意ではないと。

だから、やり方は、もし活発化チームとして入るなら、先ほど申しましたけれども、そこへ上げていくための何か小委員会みたいなもの、もしくはプログラム委員会のときのようなものを別個につくって内部でやるとか、そういうものができればと思っているので、そういった意味で、体制整備を事後的にというか並行して行うということであれば、別にその前提、その条件であれば、タスクフォースに加盟すること、もしくは発起人としてということも強く反対するものでもないというのが正直なところです。ですので、体制づくりをしていただきたい。

【加藤】 ありがとうございます。じゃあ、もう一度整理しますと、設立発起人として参加する方向で決議をしていただきたい。それで、7日間ルールで21日、ぎりぎりですけども、それを確認する。今後、必ず活発化チーム内でタスクフォースに参加するための体制を見直す。活発化チームとしてタスクフォースに参加する代表なり、ワーキンググループができればそれに誰が参加していただくかということも当然関係してきますので、タスクフォースに対して活発化チームがどう参加するかということも、引き続き活発化チームの検討事項とする。早急にそれを決めるということ提案します。

本田さん、そういう感じでよろしいでしょうか。

【本田】 私については、おおむね異議はありません。

【加藤】 ということで、皆さん、いかがでしょうか。無理やり振ってしまいましたけれども、前村さん、立石さん、両方御覧になっている方、いかがでしょうか。あと、さっきから活発に提案いただいている堀田さんも、そういう前提ならよろしいでしょうか。

【立石】 立石ですけども、私は特に異議はございませんので、それで進めていただいているんじゃないかなと思います。当然JAIPA内でも同じような議論をやりましたので、JAIPA的には、そこを言っても始まらないんだったら、取りあえず始めようみたいなのところもありましたので、ぜひと思います。

【加藤】 ありがとうございます。前村さん、いかがでしょうか。前村さんは、もう少し延期ということでしたが。

【前村】 いや、実はそうなんですよね。外部団体に対する代表というのがちゃんとできていないというのが不安で、そういった意味で、今日の堀田さんの意見に深く同調してしまってしまったということと、繰り返しちゃうような感じがしますけれども、設立発起人と言いながらも、11月22日という期日とか決めて、それで動かざるを得ないみたいなのが、かえってタスクフォースからすると活発化チームに失礼なんじゃないかとか、いろいろな思いが行き交っておりまして、できることなら、先ほども申しましたが、代表機能をどういう形で作るかというもので固まってからのほうがいいのですがという慎重論はもはや少数派のような気がいたしますので、皆さんの意見がそれが大勢なのであれば、それに従うべきだと思いました。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。堀田さんとか高松さん、まだ残っていらっしゃれば、いかがでしょうか。

【堀田】 堀田です。途中で意見を変えたと言ったんですけれども、随分まだ軟らかいから、これからいろいろTFをつくっていくんだ、できるんだということだったので意見を変えたんですけれども、おっしゃるとおりだとすれば、むしろ発起人というか、設立総会でこうあってほしいんだよねという我々の思いを誰かが演説するほうが。これは一日でも早いほうがよくてというか、設立総会で言うべきだと思うので、設立総会に出られるようになるのが、少なくとも与えられた条件の中では一番かなと思います。

以上です。

【西潟】 西潟です。今堀田さん仰ったことは、そこまで私も考えてなかったのですが、前村さんにお伺いしたいのですが、前村さんの慎重論をリザーブさせていただき、加藤チェアの提案のとおり、ここで仮にコンセンサスなりになったとして、7日間のプロセスに入るとしますと、特段の異論がないことを十分に想定した上で、11月22日のタスクフォースの設立総会で、加藤チェアから、今まさしく堀田さんからお話があった思いをぶつける場というのはあるのでしょうか。あるいは、まだそこまで段取りが追いついていないのでしょうか。

【前村】 単に考えてなかったですし。

【西潟】 いや、本田さんからいろいろ示唆、発言いただいていることとの関係とのセットですが、それも込みの場合、今何人この会合に残っていらっしゃるのか、私の端末から見られない状況なのですが、あるいは、議事のメモを取ってくださっているのか、それを御覧いただいた方に対しても、また意見が変わられる方もいらっしゃるとも思います。単純に私は、堀田さんからの今のご発言の前に考えていたのは、ただの会員と言っちゃいけないんですが、発起人と会員の差分は何ですかみたいなのも、正直前村さんに対して質問しようと思っていました。

時間の関係だけであれば、別に急がなくてもいいというもう一つの考え方でもありますよねという趣旨での質問をしようと思ったのですが、今の堀田さんのお話を聞くと、それにコミットするとまた話も違うし、逆に言えば、タスクフォースはこれから作られる新しい団体ですが、活発化チームは歴史ある、それこそ私なんかデータ通信課に着任する前から脈々と活動をなさってきたわけで、それ

を代表して、直近のイベントの盛会もしかりですし、それ以前の話もそうですけれども、例えば代表して加藤さんからガツンと仰っていただくというのと併せて、というご提案は、一つの在り方としてとても面白いと思いました。面白いという言葉が適切かどうかは、夜分なのでお許しください。率直に申し上げますが、そういうのも込みで、もう一度加藤チェアからお諮りいただいてもいいんじゃないかと思いました。以上、コメントと併せて発言させていただきました。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。これも私の個人的な意見ですけれども、総会という会で1回目からすごく強い意見を言うのがいいのかどうかは別にして、発起人とその後の会員というのは、発起人というのはそれだけこの会をこういうふうにしたいという思いを持って参加したということはある意味じゃ具現しているわけですから、今後もいろいろ発言させていただく機会がより増えるのかなというようなことを漠然とですけれども思っています。立場上は違いはないかもしれませんが、そういう意味で、入らせていただくからには、可能であれば、発起人から参加させていただくのが活発化チームの皆様のもともとの趣旨なんじゃないかなとも強く思っています。

そういうことでいかがでしょうか。時間が今までにないぐらい延長しているんですけども、もし、今皆さんに伺った限りで、設立発起人として参加するという前提で今日決議したということでお許しいただけるのであれば、そうさせていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

本田さん、お願いします。

【本田】 私は、物事の決め方は、なるべくいろいろな人が入るといいと思うので、決議したということですが、ここで提案をおおむねその方向で了承したということで、あと残りの7日間ですか、メール上で皆さんの意見があれば、それを取り込んでいくという形でやればいいと思うので、絶対に今日決めなきゃとなると、またいろいろな話が後から出てきて。

【加藤】 そういう意味では、ただ、こういうことで決めますと、それに反対なり修正、提案があれば、7日間猶予期間を持ちますというのがこの会のプロセスですので。

【本田】 それと併せて、Zoom会合に出られなかった方の意見もきちんと取り込めればいいのかと思いますので、そこのところはうまい書き方をさせていただいて、今回の決定というのは今までの何かイベントをちょっと……、ちょっとじゃないですけど、イベントの何かを決めるとかそういうことじゃなくて、私たちの活動のマイルストーンにもなるものだと思いますので、皆さんの合議で決めたという形に、それこそ文書という形でないにしても、何かメール上で、そういった形で工夫をしていただければというのが意見です。

【加藤】 そのとおりだと思います。ほかはいかがでしょう。もしそれであれば。

【西潟】 仮に加藤さんが活発化チームのチェアとして設立総会においていただくというか、オンラインだと思っているので、出席いただくとして、その時に仰っていただくことのインプットみたいなのは、例えば今日ここにいらっしゃる方、あるいはメールで後から内容を御覧になった方からインプットをもらうみたいなやり方というのは出来るのでしょうか。何かしらあれば言ってくださいと。会議法的には、最終的にはもちろん代表者として加藤チェアに一任ということとセットなんだと思うんですけども、何かしらそういうプロセスをこの一週間の中でタイトとはいえやっていただいてもいいのかなと思ったので、これはコメントです。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。それも併せて、例えば今から5日間の間にコメントいただければ、

私がそれをまとめて、1日でもこれでもよろしいでしょうかという形でもう一度皆さんに送るというようなことはできると思います。今日が14日ですから、第1回は私が仮に参加させていただくとして、そこで発言する内容について、皆さん、こういうことを言ってほしいというのがあればお願いしますというのを、できれば3日間か4日間でいただいて、それをまとめて、こういうこととこういうことを述べさせていただきますということに対して、1日か2日もう一度コメントをいただくというのでいかがでしょうか。

じゃあ、ということで、本当に無理やりのコンセンサスのようで大変恐縮ですけれども、時間との関係でこういう結果になってしまいましたが、今日は、活発化チームが設立発起人として参加することを決めると。ただし、7日間の間に重要な問題点や異議があれば、それは決定ではないということで、11月21日中にそれが最終的に決まると同時に、活発化チームは、タスクフォースへの参加のためのルール、第1回は加藤が出させていただくとして、代表を今後どうするかについて引き続き活発化チームとしての議論を継続する。3点目として、設立総会がいいのか、その後の早い時期の会議がいいのかというのがありますが、ぜひタスクフォースの中で活発化チームとして言うべきことについて意見を集めたいということで、特に設立総会に関しては、今から4日以内にコメントをいただいて、それをできるだけ反映して、加藤からまとめて、皆さんにこういうことを最低申し上げますということを出しますということを提案して、それを見ていただくと。それで、22日の会議ではそれを申し上げるというプロセスを決めさせていただきたいと思います。それでよろしいでしょうか。

それじゃあ、大変長い時間をかけて恐縮ですけれども、この件はそういうことで、今日決めさせていただきたいと思います。

あと、アジェンダアイテムとして、山崎さん、次に行っていただけますか。ユースのところだったと思いますが。

【山崎】 特に進捗はありませんが、今日、以前の内容をもう一度共有して、実績先生から1か所コメントをいただいた、それだけです。ですから、ここで皆さんにお諮りできるような内容は持ち合わせていません。

【加藤】 分かりました。今日、こんなに時間がかかると思ってなかったので、本当に時間が押しちゃって申し訳ありません。アップデートがあればぜひお願いしたいと思いますし、ジツミン先生のコメント等についても、また報告いただくような内容であればメールでお願いしたいと思います。

ということで、これでほぼアジェンダアイテムはカバーしたと思います。

チーム会合の運用については、本田さん、引き続きよろしくお願いします。

【本田】 承りました。

【加藤】 今おっしゃられたとおり、まさに活発化チームとタスクフォースの違いの部分、いろいろ今後こういうことをやろうというところを提案いただければと思います。

ということで、Todoについては、今のタスクフォースの決議に関して、今から4日間以内に、もしタスクフォースの発起人会議で活発化チームとして言うべきと思うことをメーリングリスト上で提案いただくということだと思います。

それから、あとは特にないですね。チーム会合の運営については、本田さんばかり名前を出してあ

れですけれども、引き続き提案いただくということで。

【山崎】 上村さんから手が挙がっています。

【加藤】 失礼しました。上村さん、お願いします。

【上村】 先ほど言及し忘れたので、この場で改めて申し上げます。前回のチーム会合で申し上げたとおり、本日の開催報告をもってプログラム委員会は解散ということになります。ただ、サマリーの集約など幾つかの残務処理があります。こちらについては、旧委員会の中で担当していた旧委員が個人ベースで対応するというにさせていただくことにします。委員の皆さんの尽力、それから、活発化チームの皆さんの協力で改めて御礼を申し上げますということで、プログラム委員会は本日をもって解散ということをお願いいたします。

【加藤】 ありがとうございます。あと、今日付け加えること、言い忘れたことは何かございますでしょうか。山崎さんお願いします。

【山崎】 1点、IGF事務局から、今表示している、今年アディスアベバでやるIGFのセッションのモデレーターだと思うんですけども、NRIのデータ保護のセッションのモデレーターを募集、誰がいい人はいないかという打診を受けていますが、どなたか適任を御存じでしたら、今この場でおっしゃっていただければと思うんですけども、いかがでしょうか。

【加藤】 UTCの9時は何時でしたっけ。夕方ですね。

【山崎】 18時ですね。

【加藤】 そうですね。夕方ですね。

【山崎】 プラス9で。

【加藤】 はい。

【山崎】 リモートでモデレーションする人じゃなくて、現地に行ける人となっています。ですから、相当狭まってしまうとは思いますが。

【加藤】 先ほど飯田様からも、出る人、出張の方はぜひ名乗り出てくださいというのがありましたので、そのついでにこのこともやりますというのをぜひ名乗り出ただいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【前村】 私、現地に赴くんですが、すみません、お引受けするとつらくなっていきそうな気がするので、できれば容赦いただければと思います。

【加藤】 ひょっとすると、河内さんはこの分野、データ保護の委員会とかやられているし、現地にいらっしゃるというのであれば、いかがですかね。別途お声をかけていただくといいかもしれません。

【山崎】 河内さんは退出されてしまいましたけれども、聞いてみます。

【加藤】 そうですね。

【本田】 飯田さんがやったら不都合がありますかという声があります。

【加藤】 飯田さんもさっき退出されましたよね。

【本田】 飯田様がやったら不都合がありますかとチャットに書いてあります。

【山崎】 じゃあ、お二人にお伝えするようにします。

【加藤】 そうですね。

【西潟】 このチャットは西潟が書きました。私は現地に行かないので、そもそも資格がないのであれですけど。

【加藤】 じゃあ、その件はフォローをお願いいたします。

あと、何か残している件はございますか。

じゃあ、本当に長い間申し訳ありませんでした。不行き届きで50分も延長してしまいました。次回からそういうことがないようにしたいと思います。

今回は3週間後ということで、12月5日の予定で、もうエチオピア（でのIGF 2022開催終了後）という状況だと思いますので、いろいろとアップデート等入ってくるかと思います。よろしく願います。

ということで、今日は長時間大変ありがとうございました。それじゃあ、これでお開きにさせていただきます。失礼します。

【西潟】 お疲れさまでした。

【加藤】 ありがとうございました。

以上